

リアホナ

家庭における
義にかなった指導
20ページ

家族のための
時間を見つける
30ページ

家族
「フレンド」8ページ

リアホナ



表紙

写真/ウェルデン・C・アンダーセン。
写真はイメージです。「義にかなった方法で家庭を管理する」20ページ参照



「フレンド」表紙

ストーレ家族の厚意により掲載。
「フィンランドのトゥルクに住むスザナ・ストーレ」「フレンド」10ページ参照



「しあわせかぞくゲーム」
「フレンド」13ページを
見ましょう。

一般

- 2 大管長会メッセージ——信仰の4つの隅石 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 8 深い山奥で ユーゴ・ミサ
- 12 モルモン書はあなたの人生を変えてくれます
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 20 義にかなった方法で家庭を管理する 地域幹部七十人 新山靖雄
- 25 家庭訪問メッセージ——信仰を働かせることで、主の愛を感じる
- 33 モルモン書に記された原則——永遠の選択
地域幹部七十人 イマニュエル・A・キッシー
- 42 末日聖徒の声
心の準備 ジョエル・フェアフィールド
主の計画 リチャード・J・アンダーソン
天からの助け セフェリナ・ドラ・フローレス
立入禁止 リンダ・マークス・テリー
- 48 読者からの便り

青少年

- 19 モルモン書のヒーロー——わたしはだれでしょう
- 26 わたしだけではない ラネー・ハーディング
- 29 アイデアリスト——ゴールデンアワー
- 30 質疑応答——父もわたしも忙しい生活を送る中、どのようにしたら
親しい関係を保つことができるでしょうか
- 36 歴史の試しに耐える アダム・C・オルソン
- 47 御存じでしたか?

「御存じでしたか？」
47ページ参照

フレンド

- F2 預言者の声——幸せ 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- F4 分かち合いの時間 わたしのかぞく
シーラ・E・ウィルソン
- F6 小さなお友だちへ——お父さんのしゅくふく
ジェーン・マクブライド・チョート
- F8 かぞく
- F10 友だちになろう——フィンランドの
トゥルクに住むスザナ・ストーレ
イーバ・ストーレとティファニー・E・ルイス
- F13 小さなみんなのために——しあわせかぞくゲーム
ジュリー・ウォーデル
- F14 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから
——モルモン書を読む
- F16 特別な証人——「わたしについてきなさい」
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン





「信仰の試し、氷の試練」ラリー・ウインボーク画

1846年2月、ノーブーは嵐が過ぎ去り、雪が降り積もった。気温は下がり、珍しいことにミシシッピ川が氷結した。渡し船で川を渡っていた末日聖徒は、水が凍っている間に、急いでこの大河を渡った。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジ
ェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・
B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、
ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワー
スリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリ
ー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワンダー

顧問:モンティ・J・ブラフ、J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、ス
ティーブン・A・ウエスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー、ピビアン・ポールセン、ドン
・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー、オヌ、スーザン・パレット、ライア
ン・カー、リンダ・ステール・クーバー、マリオン・ボーター・ガント、
シャナ・ガスナビ、ジェニファー・L・グリーンウッド、リサ・アン・ジャク
ソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカー、
アダム・C・オッレン、ジュディス・M・パーラー、ジョナサン・H・ステイ
ブソン、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テリー、ジャネット・ト
ーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウエッ
ブ、モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン、スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット、フェイス・P・アンドラス、
C・キンボール・ボット、ハワード・フラウン、トーマス・S・チャイルド、レ
ジナルド・J・クリステンセン、ブレント・クリスティン、ケリー・リン
C・ヘリン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピ
ーターソン、ランドール・J・ピクストン、マーク・W・ロビンソン、ブラッ
ド・ティアー、カリ・A・トッド、クラウド・E・ワナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振
替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/
001100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただ
ければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送につ
いてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-
6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話
03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)

半年予約1,200円(送料共)

普通号/大会号200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
Eメール: cur-liahona-image@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」
の意)は、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア
語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア
語、キリバス語、クオアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、
スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、
日本語、ルルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィジー語、フィンラン
ド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル
語、マラヤ語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リトアニア
語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)
©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。

印刷:日本
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Reserve Magazines February 2004.
Japanese. 24982 300

For Readers in the United States and Canada:
February 2004 no. 2 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729)
is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50
East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days'
notice required for change of address. Include address label from a recent
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

家庭の夕べのための アイデア



「深い山奥で」8ページ——

この話を使って、モルモン書がわたしたちの生活にどのような変化をもたらすか話し合ってください。会員であることを理由に犠牲を払っていることがありますか。家族に尋ねてください。ユーゴ・ミサが、この世的な生活を捨てることは犠牲ではなく、さらにすばらしい祝福に通じる道であると感じたことを指摘してください。

「モルモン書はあなたの人生を変えてくれます」12ページ——

モルモン書を通して、人生がどのように変化したか家族に尋ねてください。聖文について教える際、ヘンリー・B・アイリング長老が実行しようとしていることが4つあります。その一つは「証明する」ということです。モルモン書から原則を一つ選んでください。その原則が真実であることを証明するにはどうしたらよいか家族に尋ねてください。この原則を証明することは、一人一人の人生にどのような影響を与えるでしょうか。

「わたしだけではない」26ページ——

家族の中で、困難な問題に直面している人はいるでしょうか。この話を読んでください。聖典の中から、自分と同じような経験をしている人物を家族に挙げてもらいます。これらの人々が、どのように逆境を乗り越えたか話し合ってください。彼らの人生から何を学ぶことができるでしょうか。

「ゴールデンアワー」29ページ——

アイデアリストについて話し合ってください。家族一人一人に、テレビを見る代わりに行う活動を3つ選んでもらいます。リストにない活動でもかまいません。

「幸せ」F2ページ——

ジェームズ・E・ファウスト副管長が話したアリ・ハフェドについての記事を一緒に読んでください。遠くにある幸せを待つのではなく、今ここで幸せになるには何ができるでしょうか。子供たちに尋ねてください。

「お父さんのしゅくぶく」F6ページ——

これは小さい子供たちのためのお話です。一緒に読んでください。それから、召しに任命されることと、ほかの神権の祝福を受けることの違いについて話し合ってください。神権の祝福はどんなときに必要ですか。どんなときに授けてもらいたいですか。子供たちと話し合ってください。

今月号に採り上げられているテーマ

月「フレンド」の略	
愛	25, F4
証	36, 48
イエス・キリスト	2, 25, 33, 47, F16
教え	1, 12
改宗、改心	8, 42
家族関係	36, F10
家族歴史	20, 26, 30, F4, F8, F13
家庭の夕べ	1
家庭訪問	25, 42
犠牲	8, F16
逆境	26
教会歴史	47
幸福	F2, F13
最初の示現	2
指導性	20, 47
従順	F16
初等協会	F4
神権	2, 20, F6
信仰	25
神殿	36, 42
聖文研究	12, 19, 26, F14
聖霊	42
世界に広がる教会	
選択の自由	33
父親の務め	
テレビ	20, 30, F6
模範	29
伝道活動	42
ホームティーチング	7
召し	F6
メディア	29
モルモン書	2, 8, 12, 19, 33, 36, F14
勇気	F10



信仰の4つの隅石

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

過 去20年にわたって、80以上の神殿を奉獻または再奉獻する特権にあずかってきました。神殿はそれぞれ奉獻に先立って一般公開され、何十万という人が見に来ました。訪れた人々は神聖な建物の御霊を感じ、神殿が建てられた目的が分かるにつれて、奉獻された後になぜその建物が神聖なものに見なされ、神聖な目的に使われ、一般に公開されないのか、その理由が分かったようです。

奉獻式に参加した人はだれしも、この教会の持つ真の力を感じたことでしょう。その力は、永遠の御父としての神と救い主としてのイエス・キリストを認めるという、きずなによって結ばれた人々の心の中にあります。彼ら一人一人の証は、神聖な事柄についての信仰を基としてしっかりと確立されています。

いにしへの定礎式

それぞれの新しい神殿では、いにしえからの伝統に従って定礎式が行われました。コンクリートが一般に使われるようになるまで、建物の土台の壁は大きな石を並べて造りました。まず溝を掘り、それから土台の部分に石を置くのです。土台の壁はある部分を起点として

一方向に隅石のある所まで延び、そこまで来ると方向を変えて次の隅石のある角まで延び、さらに次の角まで延びて最終的には起点に戻ります。教会初期の神殿の建設はもとより、多くの場合、隅石は土台の壁と壁が結合する所に使用され、儀式をもって据えられました。最後に据えられる隅石は隅のかしら石であり、このことから、格別の儀式をもって据えられるようになりました。この隅石を据えると、土台より上の構造部分を作る準備ができたこととなります。このことからパウロは、真の教会を次のようにたとえたのです。

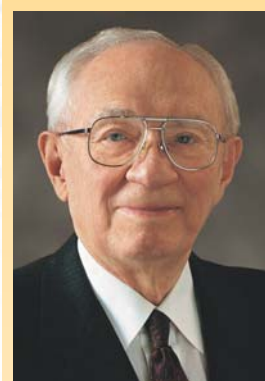
「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。

またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、イエス・キリストご自身が隅のかしら石である。

このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長〔するのである。〕」（エペソ2：19-21）

信仰の隅石

わたしたちには基本的な隅石が幾つかあり、その上にこの偉大な末日の教会が主によ



愛 する御子を賜った神に感謝します。御子は人が生きられるように御自身の命をささげられました。この御方はわたしたちの信仰と主の教会の、揺るぎない隅のかしら石です。

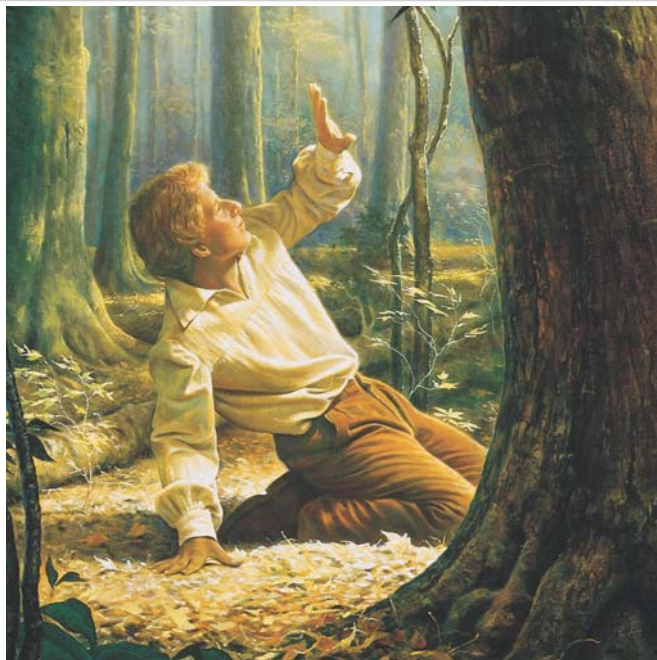
って建てられ、「組み合わせられ」ています。

隅石はこの業に欠くことのできないものであり、それこそ根本的な土台となるものです。末日聖徒イエス・キリスト教会を固く支えている4つの基本的な隅石について少しお話ししたいと思います。まず第1は、隅のかしら石、すなわちわたしたちが主イエス・キリストとして認め尊敬している御方について。第2は御父と御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたときの示現。第3はモルモン書、すなわち、ちりの中からの声として、人類の救い主が神聖な御方であることや実在の御方であることを告げる、古代の預言者たちの言葉を載せたモルモン書。第4はすべての力と権能を伴う神権であり、これをもって人は神の御名により神の王国の諸事をつかさどることができるのです。以上の事柄の一つ一つについて述べてみます。

隅のかしら石

第1にわたしたちの信仰に絶対に欠くことのできないものは、神の計画の下にユダヤのベツレヘムにお生まれになった神の御子イエス・キリストについての証です。イエスはナザレで大工の息子として成長されました。イエスには、この世の母から受け継がれた死すべき要素と、天の御父から受け継がれた不死の要素の両方が備わっていました。この世における短い生涯の間に、主は聖地のほこりっぽい道を歩いて、病人を癒し、盲人の目を開き、死者をよみがえらせ、卓越したすばらしい教を施されました。イザヤの預言にあるように、主は「悲しみの人で、病を知って」おられました（イザヤ53：3）。主はまた重荷を負う人々に手を差し伸べ、「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いから」と言って（マタイ11：30）、その荷を御自分に託すようにお勧めになりました。主は「よい働きをしながら……巡回されました」（使徒10：38）、そのために憎まれました。また、敵対する者が出て来ました。そして主は捕らえられ、言いがかりによって裁かれ、群衆を満足させるために有罪となり、カルバリの丘で十字架にかけられました。

手と足を釘で刺し貫かれ、苦しみと苦悩のうちに全人類の罪を贖うために御自身をささげられました。そして、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と言ってお亡くなりになりま



預言者ジョセフ・スミスの最初の示現は、驚くべき回復の業の幕開けとなりました。長い間約束されていた時満ちる神権時代の幕が切って落とされたのです。

した（ルカ23：34）。

主は借りた墓に葬られ、3日目によみがえられました。死を克服し、勝利のうちに出て来られ、すべての眠っている者の初穂となられたのです。主が復活されたことにより、命が永遠に続くという約束、すなわちアダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるという約束が、万人に与えられました（1コリント15：20-22参照）。人類の歴史の中で、その驚異、壮大さ、偉大さ、恩恵という点で、わたしたち一人一人のためにお亡くなりになった神の御子のたぐいえない生涯に匹敵するものはほかにありません。主はわたしたちの救い主であり、贖い主です。イザヤの預言にあるように、「その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる」のです（イザヤ9：6）。

キリストはこの教会の隅のかしら石であられ、教会にはその名が付けられ、末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれています。人を救い得る名はほかにありません（使徒4：12参照）。イエスこそ救いの源であり、永遠の命を与えてくださる御方です（ヘブル5：9参照）。イエスに匹敵する人はだれもいません。これまでもいませんでしたし、これからもありません。愛する御子を賜った神に感謝します。御子は人が生きられるように御自身の命をささげられまし

た。この御方はわたしたちの信仰と主の教会の、揺るぎない隅のかしら石です。

ジョセフ・スミスの最初の示現

第2の隅石は預言者ジョセフ・スミスの最初の示現です。1820年、季節は春でした。疑問を抱いた少年ジョセフは、父親の所有する農地の森に入って行きました。そこで独りになったジョセフは、信仰をもって神に願い求めるならば、とがめもせず惜しみなくすべての人に与えられると、ヤコブが約束した知恵を求めて熱心に祈りました（ヤコブの手紙1:5参照）。そのときの状況を自ら詳細に述べているように、ジョセフは御父と御子、すなわち宇宙の大なる神とよみがえられた主にまみえ、御二方から言葉をかけられました。

このたぐいえない出来事は、驚くべき回復の業の幕開けとなりました。長い間約束されていた時満ちる神権時代の幕が切れて落とされたのです。

それから150年以上にわたって、敵や批判家、自称学者たちが、その示現の真実性に誤りがあることを実証しようと骨身を削ってきました。むろん彼らに、示現の真実性が理解できるはずはありません。神のことは神の御霊みたまによらなければ理解できないからです。神の御子が肉体を持って地上を歩まれて以来、この示現に匹敵する偉大な出来事はほかにありません。この示現がなければ、わたしたちの信仰や組織の土台は何もありません。この示現があればこそ、すべてがあるのです。

この示現に反論して多くのことが書かれてきました。これからもたくさん書かれることでしょう。人間の限られた知性では分かりません。しかし、この示現が与えられて以来、数え切れないほどの人々が経験した聖なる御霊あかしの証は、

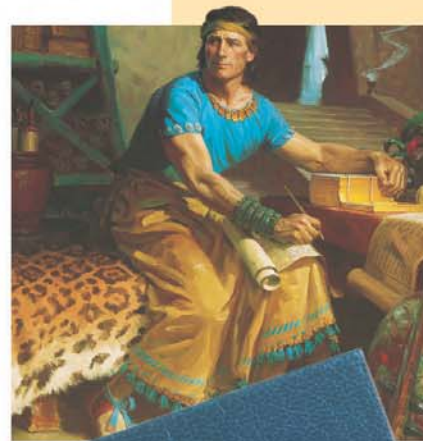
それが真実であり、ジョセフ・スミスが述べているように実際に起きたこと、またそれがパルマイラに日が昇るように確かなこと、さらにはそれが不可欠な土台となる隅石であり、それなくしては教会全体が「組み合わせられない」ことを証しています。

モルモン書

第3の隅石はモルモン書です。これは真実の書物です。物理的に計測できる重さと実体を備えています。ページをめくって読んでみると、美しく、人を高める言葉が収められています。この翻訳された古代の記録は、ちりの中から語る声として地の中から出て来たものです。モルモン書は、地上で生活したいろいろな世代の人々、逆境と闘った人々、けんかをし争った人々、あるときは神の掟おきてに従って繁栄し、またあるときは神を捨てて破滅した人々の証として現れました。モルモン書には、第5の福音書として記された事柄あがな、すなわち復活した贖い主が地球のこちら側を訪問されたことに関する新世界の人々の感動

モルモン書が
翻訳される
原典となった
古代の記録は、ちりの中
から語る声として
地の中から出て来た
ものです。

モルモン書は
いろいろな世代の人々
の証あかしとして現れました。



完 全な神権の 回復には、 キリストの

先駆者である
バプテスマのヨハネの
訪れもありました。
また、忠実に主と
ともに歩んだペテロ、
ヤコブ、ヨハネの
訪れもありました。

的な証が収められています。

証拠を執拗に迫る世の中において、モルモン書の真実性と正当性の証拠は、考古学や人類学がある程度助けになることはあっても、こうした学問の中には見いだせません。また、言葉の研究や歴史的な分析によって真実性を確認することはあっても、そのまま有効となるわけではありません。真実か否かの証拠、正当性の証拠はこの書物自体にあるのです。その真実性を試すには読むことが必要です。これは神の書物なのです。理性のある人々は、真剣にその起源について疑問を持つかもしれ

ことを知っています（モルモン書、タイトルページ）。

その書物がここにあります。モルモン書については説明が必要ですが、モルモン書の翻訳者自身はその起源を説明したようにしか説明できません。聖書と対を成すモルモン書は、聖書と並んで、イエスがキリストであり生ける神の御子とされると、疑い深い人々に告げるもう一つの証です。モルモン書はわたしたちの信仰の揺るぎない隅石なのです。

神権の回復

第4の隅石は、神権の力と権能が地上に回復されたことです。神権の権能は昔の人々に与えられていました。小神権は一部の神聖な教会の儀式とともにこの世の事柄をつかさどるために、アロンの息子たちに与えられました。大神権は主御自身から使徒たちに与えられたもので、主がペテロに宣言された次の言葉と調和しています。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」（マタイ16：19）

完全な神権の回復には、バプテスマのヨハネの訪れもありました。キリストの先駆者で、よこしまな女の気まぐれで首をはねられた人です。ペテロ、ヤコブ、ヨハネの訪れもありました。彼らは主が亡くなる前には忠実に主とともに歩み、亡くなってからは主が復活されたことと主の神性について公言しました。モーセ、エライアス、エリヤの訪れもありました。それぞれ神権の鍵をもたらし、それまでの神権時代に行われていたことや儀式のすべてを、この偉大な最後の時満ちる神権時代に回復するという業を完成させました。

神権はここにあります。神権はわたしたちに与えられ、わたしたちはその権能によって行動しています。イエス・キリストの御名に



「神権の回復」デル・バーソン画

ません。しかし、祈りの心をもって読んだ人は、普通には考えられない力によって、モルモン書が真実であり、神の言葉が収められていること、永遠の福音の救いの真理が説かれていること、「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストで「あられる」ことを確信させる」ために「神の賜物と力によりもたらされ」た

より神の息子として、また天与の賜物を持つ者として語ります。神権の力を見ればこそ、その力が分かるのです。わたしたちは、病人が癒され、足の不自由な人が歩き、暗黒の中にいた人が光と知識と理解を得るようになるのを見してきました。

パウロは神権についてこのように書いています。「だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。」（ヘブル5：4）わたしたちは神権を購入したり取り引きしたりして手に入れたものではありません。社会的な地位や皮膚の色、国籍の相違にかかわらず、主はそれを受けるにふさわしいと思われる人に神権を与えてくれました。神権は神の王国の諸事を治める力と権能です。それを与える権能を持つ人々により、按手の儀式を通してのみ与えられます。神権を受けるには神の戒めに従わなくてはなりません。

神権と同じような力は地上にはありません。神権の権能はこの世だけでなく、死のとばりを超えて永遠のかなたにまで及び、永続する結果をもたらします。

嵐からの避け所

以上、神から与えられたこれらの4つの偉大な賜物は揺るぎない隅石であり、末日聖徒イエス・キリスト教会ならびにその会員一人一人の証と確信の礎となっています。すなわち、(1) 神の御子、主イエス・キリストは実在の御方であり、神の性質を持っておられること、(2) 預言者ジョセフ・スミスに御父と御子が御姿を現され、それが時満ちる神権時代の先駆けとなったこと、(3) モルモン書は神の言葉であり、救い主の神性を宣言するものであること、(4) 神の神権が御父の子供たちに祝福を与えるために、義にかなって使うよう与えられたことです。

これら一つ一つの隅石は互いに関連があり、それぞれが使徒や預言者という土台によってつながり、すべて隅のかしら石であるイエス・キリストに結ばれています。教会はその上に建てられ、教えを受けるすべての人を祝福するために「組み合わせられ」ています（エペソ2：20-21参照）。

教会には非常に安定した土台とその上に組み立てられた堅固な組織があり、全能者の創造物として存在しています。教会は人生の嵐からの避け所であり、苦しむ者に安らぎを与える所、困っている者に援助の手を差し伸べる所です。

そして永遠の真理を保護し、神の御心を教えます。これこそ主の真の生ける教会です。

これらのことについてわたしは厳粛に証します。神はこの最後の栄えある神権時代を開くために再び語られました。神の教会、すなわち神の愛される御子の御名を冠した教会はここにあります。全能者の業をこの世代の人々に証するために、土の中から古代の人々の記録が現れました。永遠の神権は人々を祝福し、主の業を管理するために与えられています。わたしたちはイエス・キリストのまことの生ける教会の会員であり、この教会は、その教えを受け入れる人々に祝福を与えるために組織されました。この教会はしっかりと据えられた隅石に支えられ、使徒や預言者という土台の上に揺るぎなく立っています。そして、この隅石は主の永遠の目的を達成するために主が置かれたものであって、イエス・キリスト御自身が隅のかしら石となっております。■

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその例です。

1. 家族の一人に小さな板と積み木を渡し、バランスを取って積み木の上に板を置くように言う。同じ人に、積み木を2個、3個、4個と渡し、同様にしてもらう。これにより、板の下に4つの隅石を置いて安定が取れることを家族が理解できるようにする。積み木には、ヒンクレー大管長のメッセージにある4つの隅石の言葉を書いた紙をはるとよい。

2. 家族に、自分自身の証を神殿の建物にたとえて考えるように言う。そして、自分の証の隅石はどれくらい強いかわかってもらう。それぞれの隅石をもっと強くするにはどうしたらよいだろうか。

3. 家族に、自分の信仰の隅石について考えるように言う。その隅石は、ヒンクレー大管長の隅石と同じくらい堅固だろうか。各自の隅石は、日々の生活にどのように影響を及ぼすだろうか。

深い山奥で

ユーゴ・ミサ

わたしの家族は、マヤ系部族のカクチケル族に属しています。グアテマラ南部のサンファン・コマラパの山奥では、暮らしは楽ではありません。男たちは畑に出て、トムロコシや豆を作るプランテーションで一日汗を流します。女たちは昼と夜の食事を作り、畑にいる夫に届けます。一日中骨を折り、長い家路を歩いた後、男性はたいてい、中には女性もアルコールを飲んで眠ります。次の日もこの繰り返しです。

部族では、男性の平均寿命は48歳です。日々の重労働に加え、栄養不足とアルコールのせいで、体力はどんどん消耗していきます。女性は多産ですが、子供の半数あるいはそれ以上が乳児期に死んでしまいます。出産、重労働、栄養不足、そして場合によってはアルコールが、女性の寿命を縮めています。

こうした問題の中、母はわたしたち子供のためにより良い生活を望み、助けが得られるようによく祈っていました。

宣教師とトルティーヤ

一つの奇跡が起き、状況が変わりました。宣教師が村へやって来たのはわたしがまだ幼かったころですが、今でも

右——1970年代にグアテマラで福音を教えた宣教師。

母は、二人の宣教師がグアテマラの辺境地にあるわたしたちの村を訪れたのは、祈りの答えだと確信しました。





そのときの一部始終を覚えています。わたしは、母、父、兄と一緒に、畑で昼の食事をしていました。そこへ金髪の白人が二人、畑の向こうから近づいて来たのです。そのとき火で温めていたトルティーヤの香りを今でも覚えています。驚きのあまり目を見開いて、母にしっかりつかまりながら、身を守らなければならない場合に備えていつでも足をけり出せるように身構えました。ところが、見知らぬ二人の口から出てきた「トルティーヤを温めさせてもらってもいいですか」という言葉を聞いて、ほっとしました。と同時に好奇心もわいてきました。どうしておかしなまわりがあるのだろう。なぜ白いシャツとネクタイなのだろう。どうしてこんなに大きいのだろう。

「どうぞ、この火の上でトルティーヤを温めてください。」父は答えました。どのような成り行きだったか分かりませんが、宣教師は聖なる森の中にいる預言者ジョセフ・スミスの絵を見せてくれました。母にとって、それは大きなショックでした。天の御父やイエス・キリストに話しかけたり問いかけたりできることを母は以前から信じていましたが、そのようなことを教える人を見たことがなかったからです。母は最初の示現について聞きながら、真実の出来事であるという聖霊の確認を受けました。母の祈りは、二人の宣教師の訪問によってこたえられました。母は宣教師たちに、いつでも家に立ち寄るようと言いました。

その後、宣教師たちは家に来て、知恵の言葉について教えてくれました。そのときの母の喜びようは見たこともないほどでした。しかし、父の反応は少し違っていました。笑顔を見せようとしていましたが、目は潤み、額は青ざめ、顔の他の部分は真っ赤になりました。

部族の者は、何があっても習わしに従わなければなりません。宗教を変えることは部族を捨てることと見なされます。友人はいなくなり、親戚からは見下されます。親族の中で最初に宗教を変える場合は特にそうです。

宣教師が「バプテスマを受けて、教会にお入りになりますか」とすぐに尋ねてこないことが、母にとっては意外でした。母は準備ができていたのです。一方、父は宣教師が携えて来た教えが真実であると心に感じていましたが、習わしに逆らった場合に家族に降りかかる災難を心配しました。父が心を決めるまでには、もう少し時間が必要でした。

結局、父はすべての習わしに逆らい、福音を選びました。そして友人に見離されました。親戚からは愚か者だと言わ



上——ミサ兄弟姉妹のバプテスマの日、ミサ家族と宣教師たち。
右下——教会に入って数年後のミサ兄弟姉妹と幼い息子。
右上——大学生になったユーゴ・ミサ。

れ、宣教師から幾らお金ももらってバプテスマを受けたのかとののしられました。わたしたち家族はどこの家からも招きを受けなくなりました。しばらくの間、だれともつきあいがなくなりました。このような変化は、わたしたち家族にとって最もつらいことでした。

末日聖徒としての生活

イエス・キリストの福音のおかげで、わたしたち家族は大きな変化を経験しました。そのことに感謝しています。父は以前よりも長い時間を家族と過ごすようになりました。母の料理はおいしくなりました。両親は収入を賢明に使うようになりました。わたしたち子供は小学校に行けるようになりました。そのときの父の一言は、今でも忘れられません。「学位を取るまで、絶対に学校をやめるんじゃないぞ。」

わたしの家族は生まれ変わりました。家庭の夕べでは個人や家族の目標を設定しました。父は福音についてのレッスンを準備し、自分の経験を話してくれました。それまでの父には一度もなかったことです。わたしたちは両親の愛を知りました。家からお酒が消えました。母と父の口論は、互いを理解するための話し合いに変わりました。実際には貧しいはずなのに、どういうわけか物質的にも豊かになったように感じました。みんな幸せでしたし、生まれ変わったわたしたちを見て、人々は次第に父を尊敬するようにな

りました。父がアルコールを口にしなくなったので、人は父を信頼しました。友人が父にアドバイスを求めて来るようになり、父と交流を持つ人は、どういうわけか皆、繁栄していきました。福音に添った生活は火のように広がりました。父はついに農業の新技术を学ぶ集まりを組織するまでになりました。

モルモン書愛する心

わたしは子供のころから聖書を読み始めました。しかし、そのころのわたしにとって、旧約聖書を読んだり理解したりするのは、あまりにも難しすぎました。そこで、旧約聖書の代わりに、モルモン書に挑戦しました。最初の数ページを読み終えるころには、モルモン書を閉じることができなくなりました。ニーファイはわたしにとって新たな英雄になりました。毎日、学校で何時間か授業を受け、農場で長い時間働いた後、独りでモルモン書を読み進めました。読むうちに、モルモン書に登場する民とわたしの部族の間には、何か特別なつながりがあると感じました。モルモン書はカクチケル族がどこから来て、その先祖がだれであるかを説明していると感じました。

モルモン書を読み、イエス・キリストの真実の福音について学んでいくうちに、神はリーハイやニーファイ、そしてモルモン書の多くの預言者に、子孫を守ると約束しておられることに気づき、わたしは自分もその約束の一部なのだと感じました。モルモン書に登場する忠実な人々と、わたしたちの生活を変えたこの書物を紹介してくれた宣教師に対する感謝は、尽きることがありません。

わたしたち家族は、その後しばらくしてグアテマラシティへ引っ越しました。両親は教会で長年奉仕しています。子供たちはわたしのほかに、男3人、女2人の5人がいますが、皆、忠実な末日聖徒です。男兄弟3人は、専任宣教師

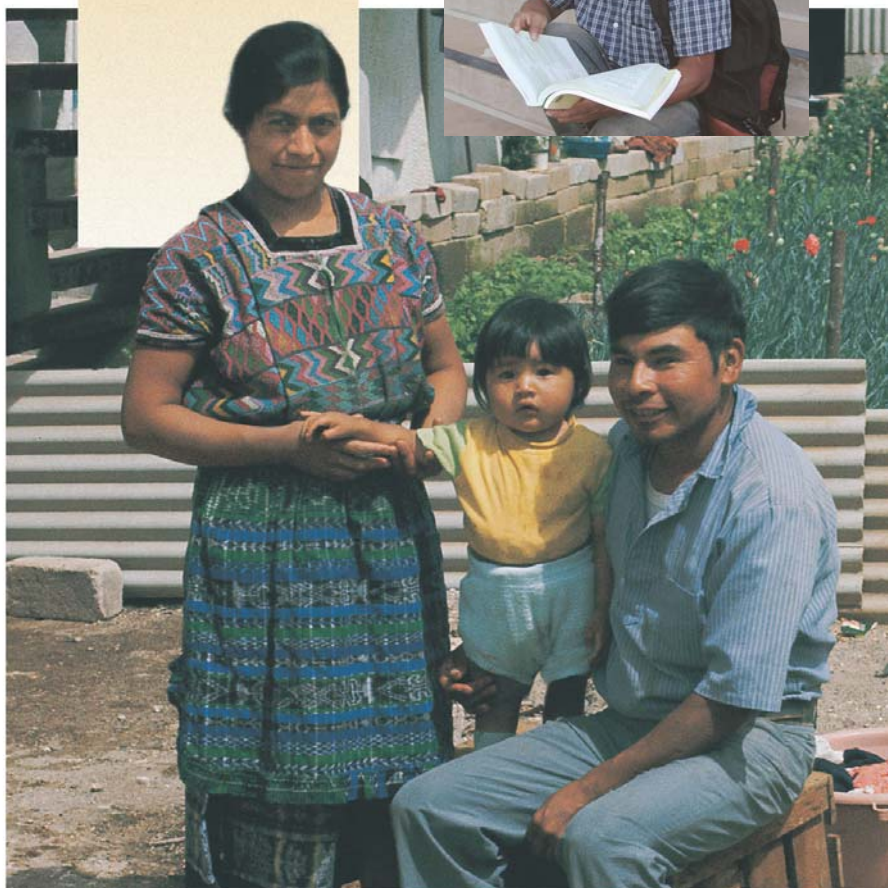
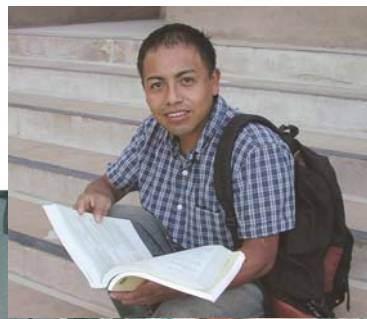
として奉仕しました。兄と妹とわたしは、現在大学で学んでいます。

わたしたち家族の改宗談は、神が御自分の子供たちに抱いておられる愛と憐れみを映し出しています。主が、どこに住んでいる子供たちにも——グアテマラの深い山奥の子供たちにさえも——その愛を示してくださることを感謝します。

宗 教を変える ことは部族を 捨てることと 見なされます。しかし、 父は習わしに逆らって 福音を選びました。 わたしたちは 教会の教えを通して 幸せな家族に なりました。

見なされます。しかし、
父は習わしに逆らって
福音を選びました。
わたしたちは
教会の教えを通して
幸せな家族に
なりました。

■
ユーゴ・ミサはユタ州プロボ東ステーク、プロボ第33(スペイン語)ワードの会員です。





モルモン書はあなたの人生を 変えてくれます

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

数年前のこと、セミナー評議会から帰宅した息子のマシューが「お父さん、字を彫ってほしいんだけど」と言って文を手渡しました。わたしがプレートに彫った文は次のようなものでした。「モルモン書はあなたの人生を変えてくれます。」¹

わたしがお伝えしたいことは簡単です。そのプレートに刻まれた言葉は真実であるということです。この引用文でお気づきになったでしょうか。モルモン書の教え、あるいは、モルモン書を研究することが人生を変えるとは言っていません。モルモン書そのものがあなたの人生を変えると述べています。これが真実であるとしてわたしが知っているかを説明したいと思います。この書物自体、生徒の目からだけでなく、教師の目から見ても、最高の教育課程です。

わたしが聖文を教えるときに、実行しようとしていることが4つあります。読む、証明する、備える、そして、証するの4つです。では、一つずつ説明していきましょう。

読む

この原稿を書く前に、短時間ですが時間を取ってモルモン書を読みました。それは人生を変える経験となりました。モルモン書に書かれている様々な出来事の光景が突然、ワイドスクリーンに映し出されるカラー映画を見るように

頭に浮かんできたのです。登場する人々にはより現実感がありました。救い主がアメリカ大陸を訪れた場面は、まるで自分が実際にその場にいたように、救い主の御姿も周りの様子もはっきり思い描くことができました。また、わたしたちが自分自身の生活と生徒たちの生活に実現させたいと切望している変化について、何らかの方法で理解していたニーファイに共感を覚えました。この変化についてわたしが教えるとするば、モーサヤ書第27章の25節、26節を引用するでしょう。

「主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。』

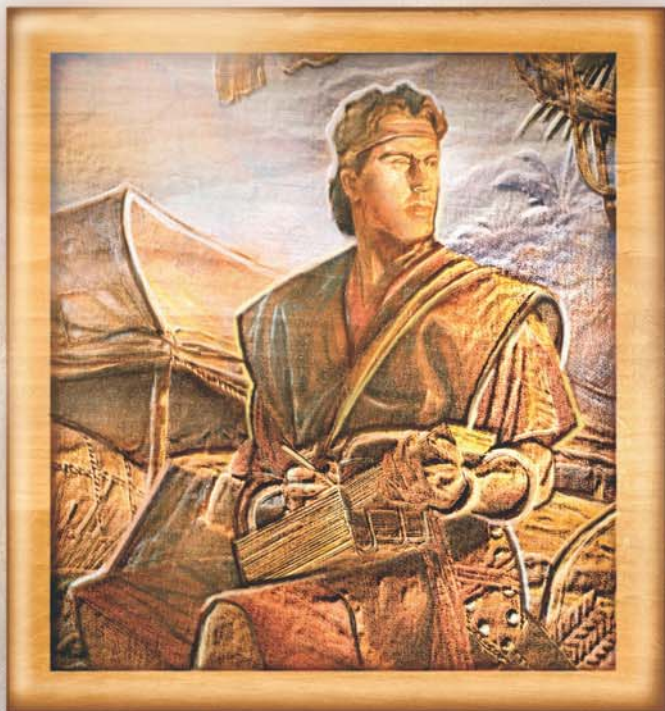
このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。』

これこそが変化です。ほんの少し良くなることではありません。ほんの少し知識を増やすことでもありません。再び生まれることであり、贖いの力によって変わる事なのです。

モルモン書には、その変化について、またその変化をどうすれば経験できるかについて書かれていることは、皆さんもわたしも知っています。皆さんに切にお願いしたいことがあります。



わたしが聖文を教えるときに、実行しようとしていることが4つあります。読む、証明する、備える、そして、証するの4つです。



モルモン書にあるイザヤの言葉を読むときに、ニーファイはイザヤという人を理解していたこと、^{ひゆ}比喩や象徴を知っていたことを信じるようにしてください。ニーファイはイザヤの言葉を直接自分に当てはめるように、と言いました。

生徒たちがモルモン書を読みたいと思うようになり、皆さんの心が引きつけられるのと同じようにきっとモルモン書に興味を持つようになるという信仰を持ってください。

わたしは難解なイザヤ書の引用部分がモルモン書を読むうえで人々の障害になっているのではと懸念していました。実際、「ニーファイはなぜここに障害となるものを入れたのだろうか」と随分考えたものです。

セミナーやインスティテュートの宗教コースの教科課程を執筆したり、コース内容を計画したりするに当たってわたしが何年も使ってきた聖句があります。

「わたしはまた、モーセの書に書き記してある多くのことを読んで聞かせたが、主なる贖い主を信じるようさらに十分に勧めるために、預言者イザヤが記したことを彼らに読んで聞かせた。すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするためであった。」(ニーファイ19:23)

恐らくニーファイがここで言おうとしているのは、イザヤ書の引用が障害となり得ることをニーファイ自身を知っていたということではないかと、わたしは考えました。彼はイザヤ書に^{ひゆ}比喩的描写が多用されていることを知っていました。聖典の中でもこれほど多くの比喩、象徴が使われている箇所はありません。イザヤ書が非常に難解なのはこのためです。し

かしニーファイは「すべての聖文を自分たちに当てはめ[なさい]」と言いました。それは、聖文は直接応用できるという意味であると、わたしは信じています。

聖句を歴史の流れに合わせて並べることがわたしより上手な人はたくさんいます。聖文に使われている比喩や^{ちよくめ}隠喩、直喩を解釈するすばらしい方法が幾つかありますので、皆さんにもできるだけその方法を学んでいただきたいと思います。しかし、もう一つ学んでいただきたいことがあります。モルモン書にあるイザヤの言葉を読むときに、ニーファイはイザヤという人を理解していたこと、比喩や象徴を知っていたことを信じるようにしていただきたいのです。ニーファイはイザヤの言葉を直接自分に当てはめるようにと言いました。それで、わたしも試してみました。ニーファイはわたしのためにイザヤ書の一部を引用してくれたのだと思いながら、もう一度イザヤの言葉を読みました。比喩にこだわらずに、主の言葉を直接聞いているかのごとく理解できるよう引用してくれたのだと思うようにしたのです。

ここでわたしがどのような実験をしたかお話ししましょう。主は人に合わせてそれぞれ異なる教えをその人の心に直接話しかけられますから、これをそのまま皆さんのクラスのレッスンに適用することはできないでしょう。これはわたしの個人的な経験であり、皆さんはわたしの心をかいま見ることになるでしょう。

ニーファイ第二書第12章を読み始めて考えました。「主はわたしに話しかけておられる。主がわたしに直接おっしゃりたいことは何だろうか。」そして、イザヤの言葉のある聖句まで来ると、その聖句は以前から下線が引かれていたかのよう目に飛び込んできました。「そしてその日には、目を上げて高ぶる者は低くされ、^{ごうまん}傲慢な者はかがめられ、ただ主だけが高められる。」(11節)

これは救い主の再臨、つまり、わたしたち全員が待ち望み、生徒たちに備えをしてほしいと願っている日を描写した聖句です。その日、自分を特別ですばらしいと思っている人はすべて低くされ、反対に主が高められると、この聖句は教えています。この日わたしたちは、主がどなたであるのか、自分はどうほど主を愛しているのか、^{けんそん}どれほど謙遜にならなければならないかをさらによく知るので。

わたしはモルモン書を読み進めていきました。イザヤの引用部分を過ぎ、エテル書第3章2節に来ました。イザヤが比喩表現を通してではなく、直接わたしに話していると信じたおかげで、それまで見たことのなかったことを見たのです。

ヤレドの兄弟は船の中で光を得るという問題に取り組んでいました。皆さんも覚えておられると思いますが、ヤレドの兄弟が主の助けを求めたとき、主はその問題に対して彼自身はどうするつもりであるかとお尋ねになりました。ヤレドの兄弟は最善を尽くしました。しかし、光を得るためには能力以上の

力が必要でした。そこでヤレドの兄弟は言いました。「おお、主よ、あなたは、わたしたちが必ず水の深みに取り囲まれると言われました。まことに、おお、主よ、……お怒りにならないでください。」

この箇所を読んでいるとき、わたしはその様子を鮮明に心に描くことができました。彼の体験していることが実際に目の前で起きているようでした。

「あなたの僕がお怒りにならないでください。わたしたちはあなたが聖なる御方であり、天に住んでおられること、そしてわたしたちがあなたの御前に取るに足りない者であることを存じています。」突然、先ほど引用したイザヤの言葉がよみがえってきました。

さらに読み続けました。「墮落のために、わたしたちの性質は絶えず悪くなっています。にもかかわらず、おお、主よ、あなたはわたしたちに戒めを与えられ、わたしたちの望みに応じてあなたから得られるようにあなたに請い願わなければならないと言われました。」(エテル3:2)

船の中の光のことはもうあまりわたしの頭にはありませんでした。わたしが考えていたのは大いなる変化と、その変化を人生で体験したいというわたし自身の切なる願い、そして、同じように変化を願う皆さんの気持ちでした。イザヤがなぜわたしに、主が高められる日を予見することと自分がどれほど主に頼っているかを知ることが役に立つと言ったのか分かりました。わたしたちには主が必要です。そして、主を信じる信仰によって、主が大いなる高められた御方であることを知り、また自分たちが小さく、主に依存した存在であると知ることができるのです。生活の中に贖いの効力を受けるためには、自分は本来何者なのかを理解する必要があります。ヤレドの兄弟ほど偉大な人でも自分を正しくとらえていました。

皆さんがこの書物を読み、この書物に主が皆さんのために授けられた教えがたくさん詰まっていることを知れば、必ずモルモン書に引きつけられることをお約束します。ニーファイもモルモンもモロナイもそのことを知っていました。この書物を編さんした人たちは、皆さんにあてたメッセージをこの書物に残しました。この書物が皆さんの生徒たちのために書かれたものであるという確信を持つことができるように願っています。簡潔に直接語りかけるメッセージは、どのようにすれば変わることができるか生徒に教えてくれるでしょう。そのためにこの書物があるのです。これは主イエス・キリストの証、贖い、および贖いが生活の中にどのように影響するかについての証です。今年はこの書物を研究することにより、贖いの力によって

得られる変化を感じる経験をすることでしょう。

証明する

二つ目は証明です。教師ならだれもがこのために考え、祈り、努力しています。イエス・キリストの福音を証明したいと思っています。生徒たちに福音が真実であることを知ってほしいと願っています。

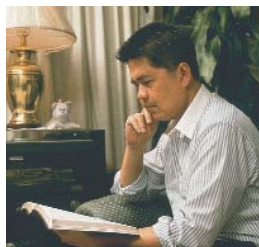
しばらく前に、妻とわたしは、妻が行うことになっているレッスンについて話をしていました。そのレッスンには一つのテーマと幾つかの目的がありましたが、その全部をレッスンに盛り込む方法は唯一、贖いを教えることであるという事実について話していたのです。そのときわたしたちは、何か大切なことを教えるときは必ず贖いについて教えていることに気がついたのです。

当時18歳だった息子のジョンも一緒にいました。ほんとうに偉大な教師は、自分の教えることは基本的には贖いであると常に認識しているものだと言った。わたしが力説していると、ジョンは証明することについて教えてくれました。彼はあるセミナーの教師について話しました。「ねえ、お父さん。その教師はちゃんと分かっていたんだよ。つまり、教師は生徒たちに証することができるし、贖いは大切なものだって教えることもできる。主イエス・キリストを信じて、悔い改め、バプテスマを受ける必要があることを教えることもできる。でも生徒は聖霊を感じる必要がある。教師はこういうことをすべて教えることができるし、生徒はその話を聞くことは聞く。でも、信じるとは限らないんだ。そういうことが必要だって信じるようになる前に、まず生徒自身で経験する必要があるんだよ。」

さらに息子は、教師が何人かの生徒にある証明をさせたときのことを話してくれました。その教師が課したチャレンジとは、不適切な映画を見に行かないことで、毎日の生活にどのような効果が表れるか試すようにというものでした。ジョンの話によると、生徒たちはチャレンジを果たしたそうです。彼らは聖霊が再びともにおられるのを感じるできるようになりました。

「墮落」があったことを証明しようとする世界中の人の説教も、人が自分で正しいことを努力して行い、その結果聖霊の力を感じることもよってもたらされる効果にはとてもかなわないと、ジョンは感じていました。墮落した状態と、主イエス・キリストに対する信仰の力と贖いの効力によって墮落を克服し高められた状態との間には、実感できる明らかな違いがあります。

皆さんは生徒たちに、彼らの課題はモルモン書が真実であることを証明することではなく、自分が神に忠実であることを証明することであると理解してほしいと願っています。彼らに



皆さんがこの
書物を読み、
この書物に
主が皆さんのために
授けられた教えが
たくさん詰まっている
ことを知れば、
必ずモルモン書に
引きつけられることを
お約束します。

それができれば、モルモン書が真実であると知ることができます。さらに、生徒たちがこの書物の教えを実行することを証明するとき、神はもっと多くのことを教えてくださいます。

「彼らがまずこれを持つことは、彼らの信仰を試すのに必要である。彼らはこれを与えられたとき、これらのことを信じるならば、そのときにはもっと大いなることが彼らに明らかにされる。

しかし、彼らがこれらのことを信じなければ、そのときにはそれより大いなることは彼らに与えられることなく、彼らは罪の宣告を受けるであろう。」(3ニーファイ26:9-10)

皆さんがモルモン書の真実性を生徒に証明しようとするとき、議論では証明できないことが分かるでしょう。すばらしい模範や経験談でも証明することはできません。これらは助けにはなりますが、「これが真実であることを信じます。この書物の教えを試してみます」と言うとき生徒は初めてモルモン書の真実性を証明することができるのです。自分の忠実さを神に証明できれば、霊的な結果を体験し、その結果証明を受けます。

モルモン書は、少しずつ自分の信仰を神に証明する人々についての記録です。神は彼らの信仰を確認し、さらに信仰をお与えになります。

わたしの知っている最もすばらしい確認の一つがエテル書にあります。主はヤレドの兄弟に主の指以外のものを見たかどうかをお尋ねになりました。



皆さんにも、
生徒たちの心を
備えさせること
ができると証します。
生徒たちに仕えて
ください。彼らのために
できる小さなことを見
つけてください。
奉仕という代価を
支払ってください。
神はそれを
尊重してくださいます。

「そこで彼は答えた。『いいえ。主よ、わたしに御自身を現してください。』

すると主は彼に言われた。『あなたはわたしが告げる言葉を信じるか。』

そこで、彼は答えた。『はい。主よ、わたしはあなたが真実を告げられることを存じています。あなたは真理の神であり、偽りを言われることはありません。』

彼がこれらの言葉を述べ終えると、見よ、主は彼に御自身を現[さ]れた。(エテル3:10-13)

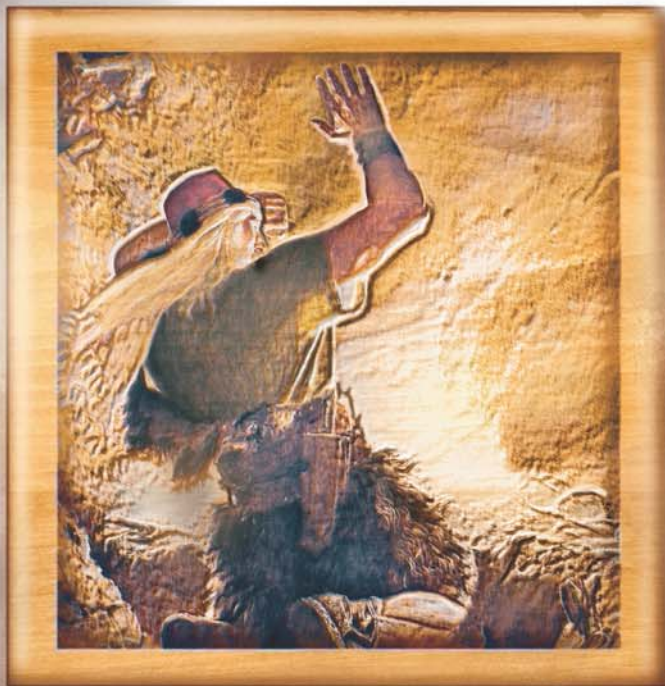
ヤレドの兄弟は、一生という長い時間をかけてこの瞬間に到達したのであって、このことは突然実現したのではありませんでした。ヤレドの兄弟は小さな光を受け、信仰を持ち、信仰を働かせました。主は彼が信仰を持ったことを御覧になり、さらにまた小さな光をお与えになりました。そしてとうとう最後にこうお尋ねになったのです。「あなたはわたしが告げる言葉を信じるか」と。ヤレドの兄弟は答えました。「はい、主よ、わたしはあなたが真実を告げられることを存じています。あなたは真理の神であり、偽りを言われることはありません。」(12節) 主はこの言葉がヤレドの兄弟の正直な気持ちであることを御存じでした。

「実行し、試すべき原則がモルモン書にはある」と生徒たちが感じられるように、モルモン書は書かれています。神が一人一人の生徒に語りかけられるのですから、皆さんは個々の生徒に適切でない応用の方法や課題を定めることのないように注意しなければなりません。モルモン書を読んでいくと、教師も生徒も何をしなければならぬか知ることができます。それを実行すれば、皆さんは自分の信仰を証明したわけですから、さらに大いなる光を頂くことができます。これまでモルモン書からどれほど多くのことを学んでいたとしても、もう一度読み、証明する必要があることを証いたします。皆さん自身を証明することによって、モルモン書の正しさを証明してください。しなければならぬと感じることを実行してください。そうすればこれまで見たことのないようなことを見いだすでしょう。

備える

教師が取る次の段階は備えです。皆さんはモーサヤの息子たちがどのように備えをしたか覚えておられるでしょう。実際、備えの例としてわたしたちが採り上げる聖句は、彼らがど

ヤレドの兄弟は小さな光を受け、信仰を持ち、信仰を働かせました。主は彼が信仰を持ったことを御覧になり、さらにまた小さな光をお与えになりました。



**アンモンは自分が教えようとする人たちに仕えることを
選択しました。「アンモンは、……ラモーナイ王の僕になった。」
もし備えについて知りたいのであれば、これを一生
忘れないでください。**

のように備えたか、特にどれほど熱心に断食し、祈ったかについて書かれたものです(アルマ17:3, 9参照)。しかし、わたしが改めてモルモン書を読んだときに、アルマ書にある別の二つの聖句が特に印象に残りました。

「したがって、モーサヤの息子たちは、きっと彼らを悔い改めさせることができるであろうと思い、またきっと彼らに贖いの計画を知らせることができるであろうと思って、その業に着手したのであった。

そこで彼らは、各々別れて、自分に与えられた神の言葉と力をもって、独りでレーマン人の中へ入って行った。」(アルマ17:16-17, 強調付加)

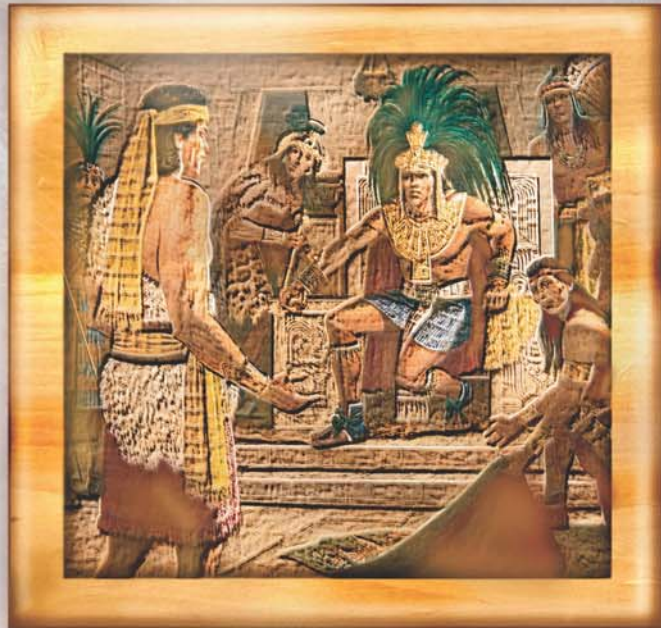
「独りで」という言葉を読んだとき、教室に入って行く皆さんのことを考えました。皆さんは独りでいきます。モーサヤの息子たちはイエス・キリストの福音を教えようと、残忍な民の中に独りで向かって行きました。(皆さんの生徒たちも同じように「残忍」に見えることがあるかもしれません。) モーサヤの息子たちは単に数人の改宗者を得るために出かけて行ったのではありません。民が贖いの力によってその生活を変えられよう助けたいと思ったのです。

アンモンは断食して祈り、聖文を研究し、教えを施すためにはだれもが必要とする霊の賜物たまものを得ることによって備えました。しかし、印象的なのは彼の教え方です。覚えておられると思いますが、ラモーナイ王はアンモンに贈り物を受け取るように、または、何かをしてあげようと申し出ましたが、アンモンは自分が教えようとする人たちに仕えることを選択しました。「しかしアンモンは、『そうではなく、王の僕になりたいのです』と言い、ラモーナイ王の僕になった。」(アルマ17:25)

アンモンのこの行動に注目してください。そして、もし備えについて知りたいのであれば、これを一生忘れないでください。アンモンは自らをよく備えましたが、それ以上のことをしました。救いの教義を学べるように教える相手を備えたのです。では、どのように行ったのでしょうか。

「そして彼は、レーマン人の習わしに従って、ほかの僕たちの中に加えられてラモーナイ王の家畜の群れを守ることになった。」(25節)

アンモンがセブスの泉でほかの僕と家畜を守っただけではなく、敵を追い払ったことを心に留めてください。アンモンをしたことを証明する証拠を持って来た同僚の僕たちは、ラモーナイ王に「彼はどこにいるか」と尋ねられ、「馬小屋にいます。あの人はあなたのお役に立てるのなら、どんな小さなことでも行います」と答えました(アルマ18:8-9参照)。



考えてみれば、これは意外なことではないでしょうか。アンモンは救いの教義を教えるために召されたはずですが、それなのに馬小屋にいたのです。彼は祈って、断食して、福音を教える計画を練っているべきだったと思いませんか。でも、馬小屋にいたのです。

ラモーナイ王は、「神はおられるが、王の行うことはすべて正しい」という信条の下で育ちました。明らかに誤った教えを受けていたために罪悪感を抱かなくなっていたのかもしれませんが。アンモンがどこにいるか知ったとき、王は僕たちを殺したことは間違った行為だったという罪悪感や恐れにとらわれたことを思い起こしてください(アルマ18:5参照)。アルマ書第18章にはどのような効果が表れたか書かれていますが、それを忘れないでください。

「すると、彼らは王に答えて言った。『彼が大霊か、それとも人間か、わたしどもには分かりません。しかし、彼は王様の敵に殺されるような人ではなく、また技量と大きな力があるので、わたしたちと一緒にいるときには敵も王様の群れを追い散らせないということだけは、わたしどもにも分かります。わたしどもは、彼が王様の味方であることを知っています。王様、ただの人間にこのような大きな力があるとは思えません。彼はほかの者に殺されるような人ではないことを、わたしどもは知っているからです。

すると王は、これらの言葉を聞いて彼らに言った。『わたしにはその人が大霊であることが分かる。わたしは前におまえたちの仲間を殺したが、それと同じようにおまえたちを殺すことのないよう、その人はおまえたちの命を守るために降って来たのだ。』(アルマ18:3-4)

以前わたしはいつも、ラモーナイ王がそれまで信じてきた教えに当惑していることに注意が向き、このすばらしい奇跡を見逃していました。その奇跡とは、一人の人の心に霊的な欲求



あかし
**皆さんは証をしなければなりません。多くの証に満ちた
モルモン書を勉強する今年1年が、すばらしい年となることを
お約束します。モルモン書最後の証について考えてください
(モロナイ10:32-33参照)。この証が最後に持って来ら
れたのには何か目的があると、わたしは考えています。**

が生まれたことです。つまり、イエス・キリストの福音の教えを受け入れる状態になったことです。彼の心は打ち砕かれました。罪を感じたのです。それはアンモンが行った俗世的な行為によって生じました。

皆さんにも、生徒たちの心を備えさせることができると証します。生徒たちに仕えてください。彼らのためにできる小さなことを見つけてください。奉仕という代価を支払ってください。神はそれを尊重してくださいます。わたしがそれをお約束します。生徒たちを愛せないようなときがあっても心配しないでください。ただ、彼らのために何かしてあげてください。そうすればもう少し愛せるようになります。それは神からの贈り物となるでしょう。

聖霊は、アンモンのためにラモーナイ王を備えさせてくださったように、皆さんの生徒たちを備えさせてくださることを証します。皆さんが自分の仕える人たちのためにする、この世の行為が持つ霊的な価値を決して、決して過小評価しないでください。

皆さんが断食と祈りと証を通して備えられるように祈っています。また、皆さんが生徒たちの心を備えさせられるように願っています。生徒たちの僕になってください。そうすれば彼らを愛するようになります。また、彼らも皆さんに愛を感じることでしょ。もっと大切なことは、彼らが神の愛を感じるようになることです。モルモン書は皆さんがそうできるように助けてくれます。

証する

皆さんは証をしなければなりません。多くの証に満ちたモルモン書を勉強する今年1年が、すばらしい年となることをお約束します。救い主御自身をはじめとする偉大な証人たちと同僚としなければ、皆さんはモルモン書を教えることはできないでしょう。

ニーファイはこう書いています。「さて、わたしの愛する同胞^{ほらから}よ、ユダヤ人よ、地の果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉であり、キリストがわたしに授けてくださったものだからである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。」(2ニーファイ33:10)

神は皆さんを愛しておられ、皆さんが御子イエス・キリストの贖いを教えるときに力を得てほしいと願っておられます。皆さんがその力を受けることを証します。

モルモン書に記された最後の証を紹介します。この証が最後に持って来られたのには何か目的があると、わたしは考えています。「まことに、キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心^{みこころ}に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になれば、決して神の力を否定することができない。

さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによって完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによって^{きよ}聖められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。キリストの血が流されたのは、あなたがたの罪の赦し^{ゆる}のために御父が聖約されたことによるものであり、それによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。」(モロナイ10:32-33)

皆さんは、神の子供たちをキリストのもとに招くよう、神の僕から求められています。そのことをはっきりと自覚することができるよう祈っています。皆さんが自分を忘れ、キリストを念頭に置いて生徒たちに仕えるなら、神は皆さんと生徒たちを祝福され、全員でないと、多くの生徒がキリストのもとに来て、人生でこの大きな変化を感じることでしょ。■

1990年8月17日、ブリガム・ヤング大学で行われた教会教育システムの宗教教育者大会における説教を基に編集

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「高貴な生得権を持つ若人へ」『聖徒の道』1986年7月号、46

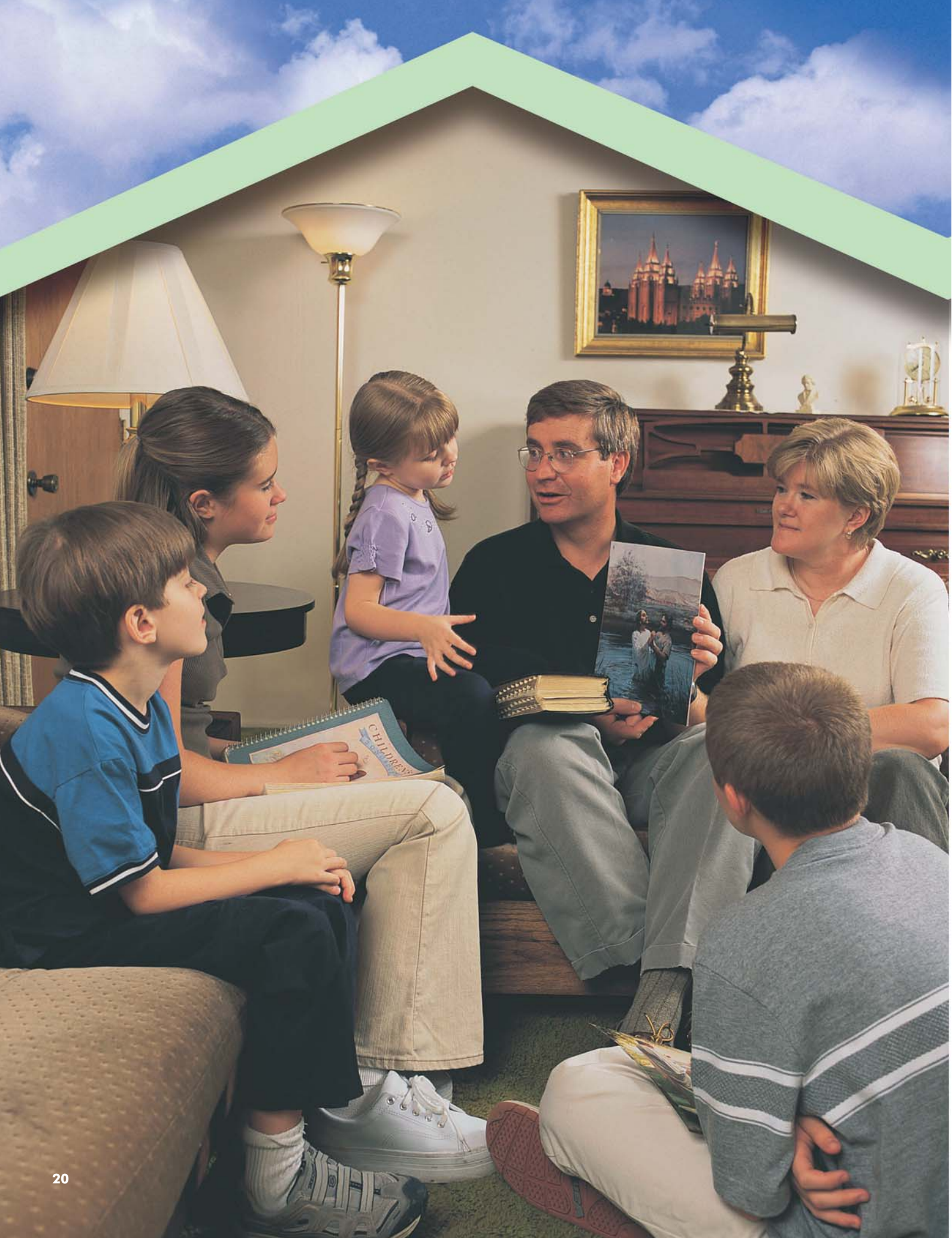
わたしはだれでしょう

わたしの人生で起こった事柄を読んで、わたしがだれか当ててください。その後、下の参照聖句も読んで、わたしのことをもっとよく知ってください。

1. 父は神の預言者でした。
2. わたしには大勢の家族がいます。
3. わたしは荒野で生まれました。
4. 子供のころ、ゾーラムという名の男性とその家族と親しくなりました。
5. まだ小さかったころ、両親はもう少しで死にそうになりました。
6. わたしをよくいじめる兄が一人ならずいました。
7. 父から祝福してもらったとき、「すべての事物には反対のものがある」と教わりました。
8. 父は、わたしがまだ若いときに亡くなりました。
9. わたしはまだ若いときに祭司と教師になりました。
10. モルモン書にはわたしの名前が付いた書があります。
11. モルモン書の中でいちばん長い章を書きました。
12. あるとき民に教を説いていて、わたしは民の目の前で衣を脱ぎ、ある意味を込めてそれを振って見せました。
13. 人生が終わりに近づいたころ、邪悪な男がやって来て、神がいるならそのしるしを示してみろと迫りました。その男は神の力に打ち倒され、数日後に死にました。
14. わたしはこの世にいるうちに贖い主^{あがな}にお会いしました。また、天使にも会い、導きを受けました。
15. わたしは自分の書の最終節で、読者に別れを告げています。■

ヒントとして、以下を参照してください。1ニーファイ1:5-20; 2:5; 16:7; 18:7, 17-18; 2ニーファイ2:1, 4, 11; 4:12; 5:6, 26; 6-10章; 11:3; モルモン書ヤコブ1-7章





義にかなった方法で 家庭を管理する

家族を治めるうえでどのように
神権を行使すればよいか、
聖文から学ぶことができます。

アジア北地域
地域幹部七十人
新山靖雄

何年も前に見たある夢が、わたしの人生を変えました。その夢を見て以来、妻や子供たちへの接し方も変わりました。夢の中のわたしは、静かな田園地帯に延びる二車線道路を運転していました。辺りは夜の暗闇に包まれていました。ふと見ると前方から、1台の車が猛スピードで近づいて来て、突然わたしが走っている側の車線を走り始めました。わたしは何とかしてその車を避けようとしたのですが、車はますますスピードを上げて迫って来ます。もう衝突は避けられないと悟ったわたしは、熱烈に祈りました。「天のお父様、どうぞ助けてください。優しい妻と愛らしい3人の子供を残して死ぬことはできません。どうかお願いします。……」衝撃を感じ、わたしは車外へ投げ出されました。

地面に打ち付けられた瞬間、わたしは目を

覚まし、すべてが夢であったことに気づいて、ほっと胸をなで下ろしました。そして自らに問いかけました。「わたしはこれまで善い夫であり、善い父親だったのだろうか。善い夫でいられるように最善を尽くしてきたと言えるだろうか。わたしが死んだら、子供たちに何を残してやれるだろうか。」

その晩は再び眠りに就くことができませんでした。そして、いっそう主に従い、妻と子供たちをこれまで以上に愛そうと、決意を新たにしました。また証^{あかし}を記録して家族に残す方法を考え、自分が死んだとき子供たちにぜひ伝えておきたいと思う事柄を、福音の教義と原則に基づくわたしの信仰を表すものとして42か条にまとめました。

新たな視野

末日聖徒イエス・キリスト教会に入ってから、義にかなった方法で家庭を管理するとはどういうことなのか、それまでにない見方ができるようになり、この教会の助けがあれば幸福な家庭を築くことができると思いました。また、回復された福音の基本原則の中には、夫や父親としての役割を果たすうえで導きとなる教えがあることも分かってきました。

独身時代、アメリカの大学に留学し、教員の複数の家庭にホームステイできたこと



家族を集めて
家庭の夕べや
家族会議を開くことは、
父親の責任の一つです。
家族が集まるとき、
互いへの愛が
深まります。



父親は、個人の祈りと家族の祈りが、啓示を受け、霊性を高めるための最も有効な手段であることを教えないければなりません。

は、わたしにとってすばらしい経験となりました。どこの家庭でも、両親は毎週家庭の夕べを開き、毎日家族で聖文を学び、一緒に祈っていました。もちろん、時には困難な問題が生じることもありました。しかしそんなときには、福音の教えに一致した方法で対処していました。

教会員の家庭の模範を^ま目の当たりにし、実際に家族の一員として生活する中で、わたし自身もいつの日か彼らのような家庭を持つと決意しました。お世話になった家庭では、父親がある勧告に従っていて、そのため家族が祝福を受けていることが見て取れました。その勧告は今「家族——世界への宣言」に盛り込まれています。

「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」¹

義にかなった方法で管理する

家族は教会の基本単位となるものですから、家庭での家族一人一人の義にかなった行いが、重要な役割を果たします。義にかなった行いは、個人の成長や家族の霊的進歩の中心となるものです。義にかなった行いについて教え、実践できるように家族を助け、模範を示すために、夫や父親は次のようなことを行うことができます。

教義と原則をよく知る。 義にかなった方法で家庭を管理するために、夫や父親はまず、回復された福音の教義と原則に関する知識を深める必要があります。福音の知識が欠けているために、夫として、また父親としての責任を拒む男性もいます。そのような人は何かほかのものに興味を奪われ、自分のことだけを考えているのかもしれませんが。あるいは神から与えられた役割を果たすために必要とされる勇気や決意が不足しているのかもしれませんが。

熱心に勉強し、よい教育を受けることは、確かに必要であり、追求する価値のあることです。けれどもそれは手段であって最終目標ではないということを心に留めなければなりません。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876–1972年）は、次のように言いました。「この世で最も重要な知識は福音の知識である。」² 夫や父親は、一人で勉強する時間を取ると同時に、皆の益となるよう家族とともに聖文を読むなら、計り知れない報いを受けることができます。

まず自分を改善する努力をしましょう。 主は「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」と教えられました（マタイ22：39）。人を愛し、管理する前に、夫や父親はまず自分自身を愛し治めることを学ぶ必要があります。天の御父と自分自身を愛することを学んだら、自信をもって周りの人、特に妻や子

供たちを愛することができるようになるでしょう。

夫や父親は、賢明に管理することがなぜ重要なのかを学ぶ必要があります。まず自分自身の感情や欲望をコントロールすることを学ばなければなりません。絶対に家族を虐待してはなりません。暴力や残忍な行為、そして辛らつな言葉は人を傷つけます。使徒パウロはこのように言いました。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。」(エペソ5:25)

各自の役割を理解し、協力し合う。男性と女性は神の目から見て平等です。「結婚生活において夫婦の優劣はない。二人は対等のパートナーであり、家族の霊的、情緒的、知的、物質的必要を満たすために、一緒に働く。……父親は家族の祝福師であり、父親だけが持つ重要な責任が幾つかある。父親は神権者であって、神権指導者の義務を持つ。」³

ふさわしい男性は、神権を授かり、家庭でその権能を行使し、家族を祝福することができます。家族を集めて家庭の夕べや家族会議を開くことは、父親の責任の一つです。家族が集まり、証や経験を分かち合うとき、互いへの愛が深まります。父親は祈りをもって定期的に子供たち一人一人と面接を行うべきです。愛をもって子供の言葉に耳を傾けるとき、父と子はともに豊かな報いを受けるでしょう。

義にかなった方法で神権を行使する。父親がいかに神権を行使すべきかについて、主は次のように説明されました。

「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げる



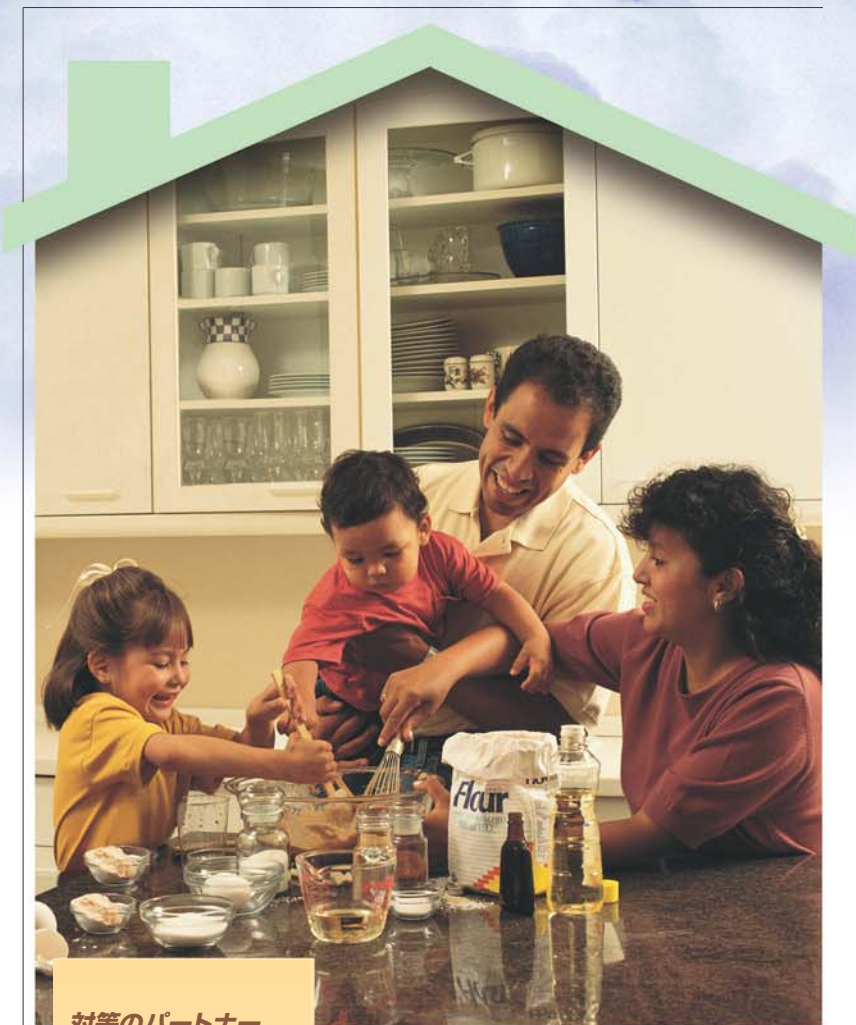
ものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。」(教義と聖約121:41-43)

夫や父親が救い主の模範ならに倣って愛することを学ぶなら、確信をもって行動するようになるでしょう。また、信仰が強められ、靈感を受けるでしょう。聖霊の導きを受け、人と接するうえで義にかなった決断ができるようになるでしょう。

子供たちに大切な事柄を教える。父親は、聖文と自分自身の経験に基づいて、子供を教え導く必要があります。個人の祈りと家族の祈りは、啓示を受け、霊性を高めるための最も有効な手段であることを教えなければなりません。祈りを通して心配事や個人的な問題を解決することができます(ピリピ4:6-7参照)。

義にかなった方法で家庭を管理するために、夫や父親はまず回復された福音の教義と原則についての知識を深める必要があります。



対等のパートナーとして、「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。」

随分前のことですが、妻が再び妊娠できなかったため、わたしたち家族は子供を3人までしか授けられないのだろうかと思いました。妻は理由を考えめぐね、自分自身を責め始めました。来る日も来る日も妻は祈り続けました。母親の悲しみに気づいた子供たちもまた、悲しみを感じていました。

ついにわたしは子供たちを呼び集めました。話し合いの末、家族で特別な祈りを行うことになりました。まずわたしが祈り、続いて子供たちが一人ずつ順に祈りました。わたしは皆、すばらしい気持ちになり、主の御霊がその場に注がれるのを感じました。母親はきつともう一人子供を授かるだろうと、子供たちは皆確信しました。それから約10か月後、4番目の子供が生まれました。わたしたちの喜びは実に大きなものでした。また妻とわたし、そして子供たちが得た証は何とすばらしいものだったでしょう。

救い主の平安を感じる

「家族——世界への宣言」では次のように教えています。「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。」⁴ 父親だけがこの責任を負っているのではありません。夫婦が義にかなった方法で家族を養おうと最善を尽くすとき、周りの人はそのことに気づき始めるでしょう。以前PTAの集まりに出席した妻は、「末日聖徒イエス・キリスト教会の人たちは、どうやってあんなに立派に子供たちを育てているのですか」という質問を受けました。多くの教会員が妻と同様の経験をお持ちだと思います。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はかつて次のように言いました。「わたしたちは、指導者の勧告に従うならば、家庭を本来あるべき姿に保つことができます。わたしたちがそうするなら、周囲の人々は敬意をもってそれを見、その方法を知りたいと思うようになるでしょう。」⁵

現在家庭の中で行っていることについて、立ち止まってじっくり考え、反省してみましょう。夫や父親が愛をもって家庭を管理するとき、家族一人一人のうえに救い主が約束された次のような平安が訪れますように。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27) ■

注

1. 『聖徒の道』1998年10月号, 24
2. 「最も重要な知識」『聖徒の道』1971年9月号, 245
3. 『福音の原則』234—235
4. 『聖徒の道』1998年10月号, 24
5. 「山の上にある町」『聖徒の道』1990年11月号, 8

信仰を働かせることで、 主の愛を感じる

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

どのようにすれば信仰の力を得ることができるのでしょうか。

アルマ32：28——「もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、……あなたがたは……心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉^{みことば}は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。』」

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン——「信仰が存在するとき、人は見ることでできないものに対して絶対の信頼^{みことば}を置き、その行動は天の御父の御心に完全に従ったものとなります。……わたしたちの信仰が天の御父の御心にかなうときに初めて、望みどおりの祝福を受けることが可能となるのです。」「(『地上に信仰が見られるであろうか』『リアホナ』2002年11月号、83-84)」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス——「主イエス・キリストへの信仰の実践は、どのような場合でも、天の秩序、主の慈しみと御心と知恵、また主の時にかかっています。主の御心と主の時に対する完全な信頼なしには、主をほんとうに信じることはでき

ません。」「(『主イエス・キリストへの信仰』『聖徒の道』1994年7月号、109参照)

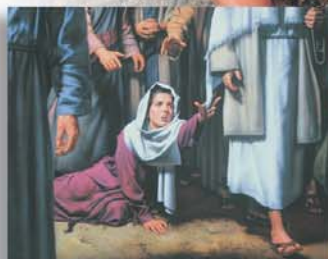
元中央扶助協会会長 エライザ・R・スノー(1804-1887年)——「信仰とは活力です。わたしたちは皆、活力に満ちていなければなりません。」「(1882年7月29日付、ユタ州モーガンステーク扶助協会議事録に記載)

信仰を通して主の愛に触れるにはどうすればよいのでしょうか。

ヒラマン5：47——「あなたがたは……信じているので、あなたがたに平安があるように。」

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン——「主に対する信仰を働かせるとき、主の約束が成就すると信じるができるようになります。主が強さの源であるかぎり、決して取り残されることはありません。わたしたちの理解を超えた主の平安が霊を満たしてくれます。姉妹の皆さん、救い主を信じる信仰を第一に求めてください。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット——「不快な思いや苦痛、抑圧、試練や悲しみのない世界を追い求めようとしないでください。これらは、愛に満ちた御父がわたしたちの個人的な成長と理解を促すために用いられる手段だからです。聖典に繰り返し述べられているように、わたしたちがイエス・キリストへの信仰を働



かせるなら助けが得られます。……キリストを信仰す

るとは、キリストを信頼し、主の教えに信頼を置くことです。信仰は希望を生み、希望は慈愛、すなわちキリストの純粋な愛をもたらします。キリストの純粋な愛とは、主が人類を気にかけ、愛しておられること、また人を立ち直らせ、重荷を軽くする癒しの力を持っておられることを知ったときに感じるあの平安なのです。」「(『癒し』『聖徒の道』1994年7月号、8参照)

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル——「次のように言うことができます。『わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っていますが、すべてのことの意味を知っているわけではありません。』(1ニエファイ11：17)一人一人の人生において、これまでも、またこれからも重要なのはこのような信仰です。自分自身の身の上、あるいは身の回りに何が起きているのかは分かりません。しかし、神がわたしたちを愛しておられることは知っています。現在のところはその知識だけで十分なのです。」「(『Not My Will, But Thine』[1988年], 119) ■

わたしだけ ではない

アメリカ大陸への航海の途上、兄たちはニーファイを縛り、たたきました。ニーファイの苦難を知り、自分の悩みが小さく思えました。

ニーファイの経験により、わたしだけでなくだれもが悩みを抱えており、またそれを克服できることが分かりました。

ラネー・ハーディング

父が家を出て行き母と離婚したとき、わたしは打ちのめされ、見捨てられたと感じました。すべてが変わってしまいました。わたしの態度も、人生設計も。

お金のこと、つまり貧しいことが、悩みの種となりました。母は二つの仕事をしました。親友が買い物に誘ってくれたとき、食べていくのがやっとで服に回すお金などないなんて、恥ずかしくて言えませんでした。

わたしのつらい思いを知った母は、慣れない裁縫をして服を何枚か作ってくれましたが、母の好意とは裏腹に、一つとして出来栄のいいものはありませんでした。作ってくれたズボンは、丈が短かっただけでなく、色が明るすぎて恥ずかしくなるようなものだったので、ズボンははきたくなかったし、

母の手作りの服で着たいものは一着もありませんでした。でも母の気持ちは傷つけたくなかったのです。

そのズボンを学校にはいて行った日のことは、人生で最も屈辱的なこととして今も心に強く残っています。学校でいちばん人気者のマイクは、あれこれ忙しいくせに、わざわざ何度も手作りの服をからかいにきました。その日はマイクだけでなく皆から笑われました。

けれども、学校でつらいのはまだましで、家ではもっと悲惨でした。父が出て行き、母が長時間働くようになると、わたしと弟たちが家事をせざるを得なくなりました。庭の手入れも含めてです。全力を尽くしたのですが、「庭をきれいにしてくれないと、隣近所まで恥をかきます」という書き置きを見つけ、ことさら惨めに思いました。確かに我が家は内も外もよその家庭ほどきれいではなく、恥ずかしくて友達を呼べたものではありませんでした。

早朝セミナーに行くようになってから、事態は一変しました。良くなったのです。心が通じ合う一人の人と知り合いになりました。その人はわたしよりもっと深刻な問題を抱えていました。その人と自分との違いは、わたしが落胆していたのに対して、彼は主に近くあって不平を言わなかったということです。わたしが話しているその人とはニーファイのことです。





Walter Rame



自分たちの利益となるように

ニーファイはこう説明しています。「すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるように[した。]」(1ニーファイ19:23)

セミナーの教師のモーテンセン姉妹は、だれでも、ニーファイでさえも、人生の悲痛や苦悩から逃れることはできないと指摘しました。ニーファイが偉大であったのは、次々と起こる問題と闘いながらも、決して希望や証^{あかし}を失うことがなかったところです。ニーファイは、人生最大の問題は両親の離婚でも派手なズボンでもなく、手に負えない問題でも人でもないことを気づかせてくれました。最大の問題は、自分で完全にコントロールできる「自分の態度」だったのです。

ニーファイの家族の生活は急変します。父親が家や財産を後に残して家族を荒野へ連れ出したのです。それが気に入らなかった兄たちは不平を言い、つぶやきますが、ニーファイは理解を求めて祈りました。

兄たちは不満をニーファイにぶつけました。ニーファイを棒で打ちたたき、縄で縛り、ついには殺そうとたくらみました。ニーファイが受けた暴力について知ったとき、マイクやほかの生徒からのいじめが取りに足りないことに気づきました。もっと驚

いたのは、わたしは意地悪な人を軽蔑^{けいべつ}してばかりいたのに、ニーファイは愛をもって堪え忍び「兄たちのしたことをすべて心から赦^{ゆる}し」ということです(1ニーファイ7:21)。

わたしの家庭環境についてとやかく言う友達ほとんどいませんでしたが、一人だけ、電話でこう言いました。「お母さんからもうあなたとつきあっちゃだめって言われたの。あなたみたいに家庭に問題のある子とつきあっていると、悪い影響を受けるからって。」それを聞いてわたしはわっと泣きだし、それから幾晩も涙でベッドをぬらす日が続きました。

ニーファイも泣きながら床に就いたと打ち明けています。「夜は……涙で枕^{まくら}をぬらしている。」(2ニーファイ33:3)わたしと違うのは、ニーファイは一日中家族のために祈り続けたことです。惨めな自分のことしか頭になかったわたしは、ニーファイのようにしていませんでした。

ニーファイも家庭に多くの問題がありましたが、いつも忠実に生きました。天の御父に頼ることで、苦痛や苦悩に対処したのです。

ニーファイはサタンの策略に決して惑わされませんでした。サタンは「御父からどれほど愛されているかは、平穩無事な生活が送れるかどうかで測られる」と思い込ませようとします。ニーファイは、悪い出来事が降りかかってくるつらい出来事をどうしようもない場合はあっても、問題にどう対応していくかという選択は常にできることを証明したのです。■

ラナー・ハーディングは、テキサス州ヒューストン南ステーク、シュガーランド第1ワードの会員です。

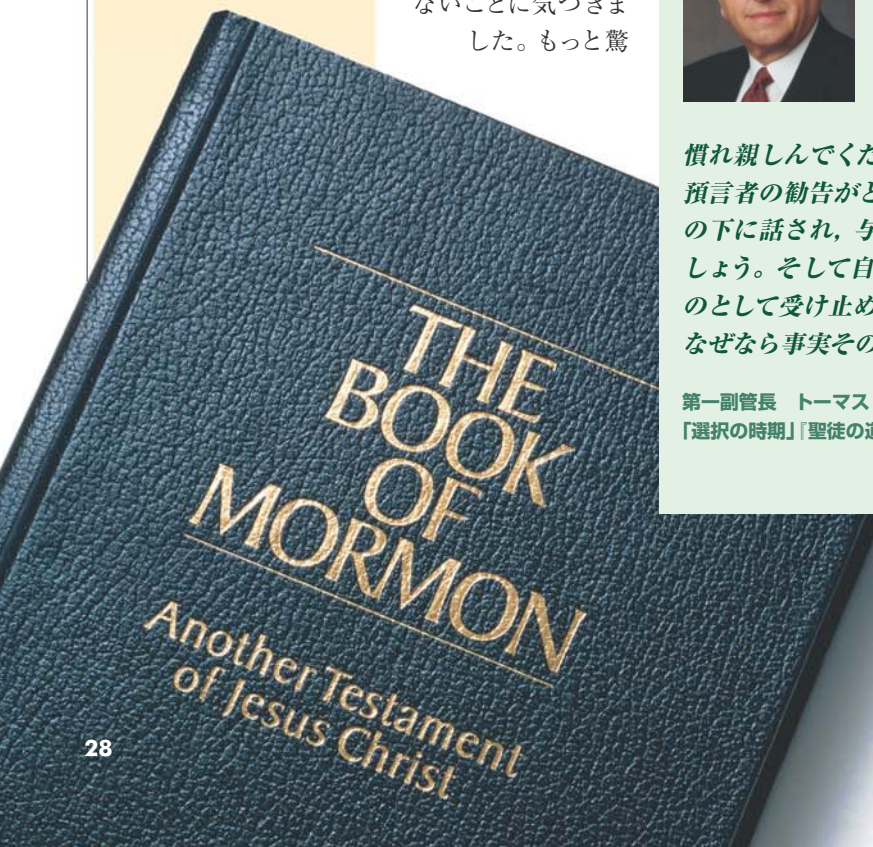


信頼できる導き手

「聖典はわたしたちの人生における揺るぎない道しるべ[です。]聖典に書かれている教えに

慣れ親しんでください。主のたとえや預言者の勧告がどのような背景や状況の下に話され、与えられたかを学びましょう。そして自分自身に語られたものとして受け止め、研究してください。なぜなら事実そのとおりだからです。」

第一副管長 トーマス・S・モンソン
「選択の時期」「聖徒の道」1995年7月号, 105



ゴールデンアワー



20世紀の発明品の中でも、テレビは最高の部類に入ります。しかし今日、そこには多少の危険が伴います。有害な番組を避けるよう心がけるだけでなく、テレビを見るのにどれくらいの時間を費やしているのかも気に留めなければなりません。

テレビを見ているほとんどの時間は、何か別の使い道があります。メキシコ・メリダステーク、イツァエスワードのファン・チャコンが教えているセミナークラスの生徒は、テレビの前で時間を過ごす代わりに、以下の事柄を行うよう提案しています。

- ◆ 家族や友人と話す時間を持つ。
- ◆ 聖文を研究する。
- ◆ バスケットボールなどのスポーツやボードゲーム〔訳注——チェスなど、盤上で行うゲーム〕をする。
- ◆ 宿題をする。
- ◆ ワードや支部のあまり活発でない同年代の会員を訪問する。

- ◆ 友人と活動を計画する。
- ◆ だれかのために、何か善いことをする。
- ◆ 教会機関誌や良書を読む。
- ◆ 精神が高揚するような音楽を聴く。
- ◆ 仮眠する。
- ◆ 友人や宣教師に手紙を書く。
- ◆ 日記を書く。
- ◆ 弟や妹を公園や散歩に連れて行く。
- ◆ 両親や祖父母に、子供時代のことを尋ねる。
- ◆ 新しい趣味を持つ。
- ◆ マスター聖句を暗記する。
- ◆ 散歩や運動をする。
- ◆ 夕食の準備を手伝ったり、家の中や庭をきれいにしたりする。
- ◆ 図書館、学校、病院でボランティアとして働く。■

質疑応答

父もわたしも忙しい生活を送る中、どのようにしたら 親しい関係を保つことができるでしょうか

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

『リアホナ』からの提案

人間関係を築き、強めるためには、時間と努力が必要です。あなた自身も忙しいわけですから、親との意義ある時間が苦もなく手に入ると期待することはできません。あなたも親も、ともに過ごす計画を立てようという気持ちが必要です。

より良い関係をはぐくむには、まずそのことについて話し合うことです。もっと一緒に過ごしたいと思っていることが分かれば、お父さんは時間を作るために最善を尽くしてくれるでしょう。もちろん、あなたも時間を合わせなくてはなりません。自分が管理できるのは自分の時間だけなのです。互いの時間が合わないときは、お父さんとの時間のために、ほかの大切なことを犠牲にする必要があるかもしれません。

幸い、あなたは親と良い関係を保ち、強めたいと思っています。青少年の中には、親子関係の大切さが分からず、親子関係を強める責任は子供にもあるということを知らない人

家族関係は永遠に続くよう意図されました。ほかの何よりも優先させるべきものです。

人間関係を築くには時間がかかります。家族との時間を作るために、自分の時間を調整しましょう。

お父さんと話しましょう。もっと一緒に過ごしたいという望みを伝えなければ、お父さんも時間を作ることができません。

家族の祈り、家庭の夕べ、家族の聖文学習、その他の活動に協力しましょう。

一緒に過ごす時間を作る努力をしましょう。有意義に過ごせるように前もって活動を計画しましょう。

も多いのです。ある末日聖徒の少年がこう言いました。「家族とはいずれ永遠に一緒にいることになるんだから、今は友達といることにしています。」しかし、家族を今第一にしていなければ、永遠の家族の一員になることはできないでしょう。

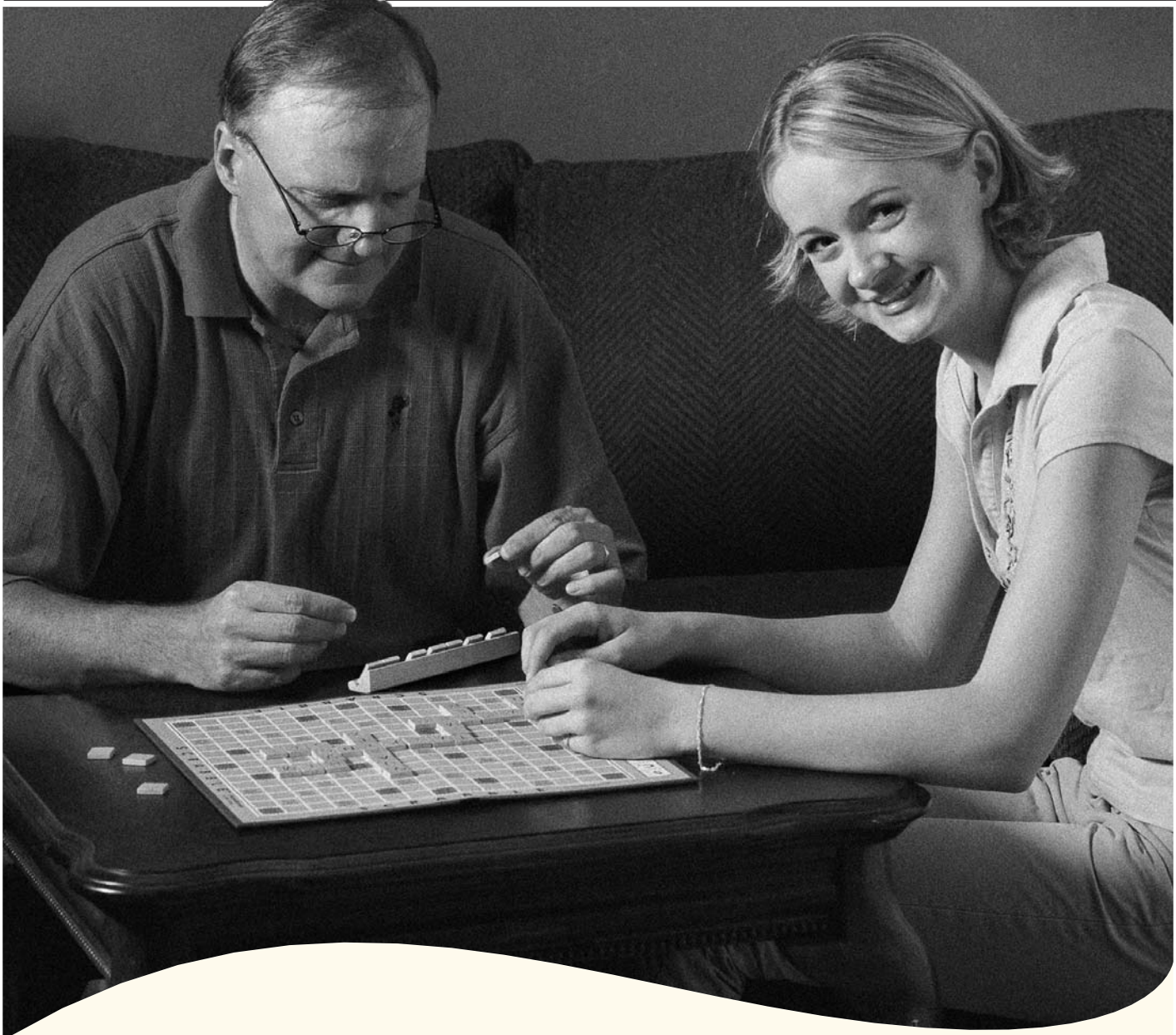
友達、スポーツ、その他の活動が必ずしも悪いというわけではありません。しかし、家族は永遠ですが、友達からの人気は永遠ではありません。

お父さんや家族と過ごす時間を増やそうと考えるのなら、たとえ良いことであっても、家族の交わりほど重要ではない事柄に心を奪われないようにしましょう。

次に挙げる読者からのアイデアは、お父さんとの関係を強めるために役立つことでしよう。

一緒に過ごす時間を見つける

一日わずか5分でも、毎日一緒に過ごすことが大切。家族の祈り、家族の聖文学習、家庭の夕べに欠かさず加わる。食事など、家族で過ごせるチャンスを逃さないようにする。



写真/ケリー・ラーセン、写真はイメージです。

用事が出かけるときにはついて行く。週に1度一緒に過ごす計画を立て、カレンダーに印を付けてお互いに忘れないようにする。

時間が見つかったら

互いに話す、冗談を言う、ゲームをする、好きな聖句を分かち合う、一緒に祈る、教会機関誌の記事を読んだりセミナーや教会で学んだりしたことについて感想を話す、自分の問題についてお父さんの意見を聞

いたりアドバイスを受けたりする、など。

時間が取れないとき

仕事のじゃまにならない時間を教えてもらい、電話でその日の出来事を少しでも話す。短いメッセージを書いて、枕もと、お手洗いや洗面所、ソファなどに置く。関係を強められるように助けを祈り求める。

読者からの提案



結局は時間です。わたしは父と過ごした時間を忘れないでしよう。時間の長さは問題ではありません。父との関係において、一緒に過ごす時間は欠かせないものです。

フィリピン・バギオ伝道部
フランク・マエア長老、21歳



愛には犠牲が伴います。お父さんとの関係をより良くしたいと望むのなら、友達との時間を少し犠牲にしたり、やりたいことを少しあきらめたりする必要もあるでしょうね。

コロラド州ゴールドステーク,
エバーグリーンワード
リンゼー・パウエル, 14歳

父が大好きです。父と話せるように、帰って来るまでずっと待つようにしています。家庭の夕べなど、家族一緒に何かするときには、自分の気持ちを父に話します。机の上に簡単な手紙を置いたり、昼食の時間に職場に電話をしたりしています。

ハイチ・ポート・オー・プリンスステーク,
フレイレスワード
マリエ・ファニア・ソフィア・フランソワ, 14歳

親しい関係を築くためには、お互いに何でも話す必要があります。毎日家族で祈らなければなりません。お父さんに何でも話しましょう。家族の活動や家庭の夕べに参加しましょう。

サモア・アピア伝道部
ス・トゥリマヌ・ジュニア長老, 21歳

わたしの父も忙しいのですが、朝食のときに日々の出来事について話しています。毎週少なくとも1回、家族会議を開いています。家族で祈ったり、教会の機関誌を読んだりします。一緒にいられないこともよくありますが、これまで父からたくさん学んできました。そして、家族が霊的になれるように主に祝福を祈り求めています。

ベネズエラ・エルティグレ地方部,
ラスコリナス支部
ジェニレー・M・ロドリゲス・エルナンデス, 15歳



「俗」 世の事柄が押し寄せてくると、

正しくないことを最優先させてしまうことが非常に多いのです。すると、人生の根本的な目的はどこかへ忘れ去られてしまいます。サタンは善良な人々を攻撃する強力な武器を持っています。それは混乱という武器です。サタンは善良な人々の生活にいわゆる『良いもの』をいっぱい詰め込んで、必要不可欠なものが入る余地を奪うのです。あなたは無意識のうちこのわなに陥ったことはないでしょうか。」

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット
「第一のものを第一に」
『リアホナ』2001年7月号, 7

幼いころから父が出かけるときにいつもついて行きました。父は姉とわたしを時々学校に送ってくれ、いろいろなことについて話します。父との「デート」の時間を計画したり、家族で買い物に出かけたり、家や仕事先に互いに電話をしたりしています。

グアテマラ・グアテマラシティ
マリスカルステーク, パノラマワード
パトリシア・マリア・デル・カルメン・フエンテス・ロドリゲス, 12歳



毎週少なくとも一晩は、お父さんとの時間を確保しましょう。一緒にゲームをしてはどうでしょう。日曜日は一緒に静かな時間を過ごすのに最適です。お父さんのことをもっと知りましょう。何が好きか見つけましょう。朝食を作ってあげるなど、お父さんに何かしてあげましょう。

ユタ州アルパインステーク,
アルパイン第10ワード
ジェシカ・リー・ジェンセン, 12歳

あなたの意見を聞かせてください。

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対するあなたの考えを、氏名、年齢、ワードおよびステーク（または支部および地方部）を明記のうえ、写真を同封して送ってください。

あて先——Questions and Answers
03/04, Room 2420, 50 East North
Temple Street, Salt Lake City, UT
84150-3220, USA

Eメールアドレス——cur-liahona-imag@ldschurch.org

締め切り——2004年3月15日までにお送りください。

質問

「わたしは福音が大好きですが、福音について人と話すのは怖いです。どうすれば恐れを克服できるでしょうか。」■



永遠の選択

ニーファイ第二書第26章27節から28節, 33節から分かるとおり,
天の御父の子供たちには、従順と幸福の道を自由に選ぶ機会がなければなりません。

アフリカ西地域
地域幹部七十人
イマニユエル・A・キッシー

ヨ ハネの
黙示録
には、

天で戦いがあったと記されています。「ミカエルとその御使たち^{みつかい}とが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも^{つかい}応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示12：7-9)

なぜ天で戦いが起こり得たのでしょうか。神の子供たちの間にそのような敵対心が生じたのはなぜでしょうか。

戦いの原因は、そのほとんどが反乱です。天の御父は、永遠の幸福に至る従順の道を選ぶ機会をすべての子供たちに与えられました。しかし、周りの人の選択の自由は気にも留めずに、私欲の道を選



ぶ者もいるようです。

イザヤは、そのような者の頭^{かしら}であるルシフェルが心の内に言ったことを書いています。「わたしは天のほり、わたしの王座を高く神の星の上におき、……雲のいただきにのほり、いと高き者になるろう。」(イザヤ14：13-14) ルシフェルは、すべての者の父^{あがな}である神に、「わたしは全人類を贖って、一人も失われないようにしましょう」と語り、こう要求しました。「ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」(モーセ4：1)

選択の機会

御父はその計画の中で、この世に送る霊の子供たちを導く熟練した教師を求められました。この教師は完全な模範を示し、神の子供たちはその模範に従うかどうかを選ぶのです(アブラハム3：24-28参照)。神の長子はこの計



救いと永遠の命に至る道を知り、その道を選ぶ機会は、万人になければなりません。この教義はモルモン書の中で何度も繰り返されています。このメッセージは現代にも同様に繰り返されています。

画に同意し、こうおっしゃいました。「父よ、あなたの御心が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」(モーセ4：2) 全人類が地上に来て生活するに当たって、イエス・キリストは万人の教師、模範、ついには救い主となるよう選ばれました。

この後に起こった戦いにより、御父の霊の子供たちの3分の1はルシフェルとともに天から投げ落とされました。そして残りの3分の2は第一の位を保ち、救いの計画に従って成長する機会にあずかったのです。主はこの子供たちに、アダムとエバを通して語られました。「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。」(創世1：28)

残念なことに、地上に来る御父の子供たちの中には、現世でも続くサタンとの戦いに負ける者もいます。反対に、変わることなくイエス・キリストに従い、悪しき者に打ち勝つ子供たちもいます。御父の御心は、すべての人が主に従う機会を与えられ、その選びに応じた報いを受けることなのです。「まことに、神はすべての人を公平に重んじられ、義にかなった者は神から恵みを受けます。」ニーファイはこのように記した後、人々が神の言葉を拒み、罪悪が熟すときには「神の満ちみちた激しい怒りが彼らに下〔る〕」と述べています(1ニーファイ17：35)。

すべての神の子供に手を差し伸べる

この世で神の言葉を聞くことがなかった人々はどうなるのでしょうか。望みはあるのでしょうか。

望みはあります。天の御父は無限の愛と憐れみをもって、すべての子供たちが御父の教義を知り、御父に従うことを選択する道を備えられました。詩篇の作者は、すべての人が信じて救われる機会にあずかるであろうという預言の言葉を書き残しています。「主はその勝利を知らせ、その義をもろもろの国民の前にあらわされた。主はそのいつくしみと、まこととをイスラエル^{くにたみ}の家^{あわ}にむかって覚えられた。地のもろもろのはては、われらの神の勝利を見た。」(詩篇98：2-3)

復活されたイエス・キリストは、使徒たちにこう言われました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われ

る。しかし、不信仰の者は罪に定められる。」(マルコ16：15-16) 主は示現を通してペテロにお教えになり、福音の良い知らせは御父の子供たちのうちだれにも差し控えられないことを明らかにされました(使徒10：9-16参照)。ペテロは次のように言っています。「神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」(使徒10：34-35)

ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は、この世で福音を聞く機会がなく死んだ霊たちに、霊界で福音が宣べ伝えられるのを示現で見ました。これらの霊たちは、霊界で「肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神のように生きるための資格を得るうえで知っておく必要のある、福音のすべての原則」を教えられるのです(教義と聖約138：34)。

ほかの証人

救いと永遠の命に至る道を知り、その道を選ぶ機会を、万人になければなりません。この教義はモルモン書の中で何度も繰り返されています。例えば次のようなものがあります。「主は、すべての人に救いを無料で授けてこられた。……すべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。……そして主は、

御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれぬ。主は異教徒さえも心にかけてくれる。ユダヤ人も異邦人も、すべての人が神にとって等しい存在なのである。」(2ニーファイ26：27-28, 33)

またモルモンはこう教えています。「主の腕が、悔い改めて主の名を信じるすべての人

前 世での会議において御父の計画を知り、「喜び呼ばわった」者たちは(ヨブ38：7)、神と御子イエス・キリストの力を通して福音を受け入れるとき、再び歓喜するのです。



に伸べられることが分かるのである。」(アルマ19:36) さらにアンモンはこう記しました。「さて、兄弟たち、神は民がどの地に住んでいようとも、すべての民を心にかけてくれることが分かる。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神の憐れみの心は全地のうえに及んでいる。これがわたしの喜びであ〔る。〕」(アルマ26:37)

このメッセージは現代にも同様に繰り返されています。「主の声は、聞こうとするすべての人が聞けるように地の果てにまで及ぶ。」(教義と聖約1:11) 主は古代の使徒たちに、地の果てまでも行くようにお命じになったのと同時に、御自身の言葉が末日に預言者ジョセフ・スミスによってもたらされると説明されたのです。「わたし
の完全な福音が弱者
や純朴な者によっ

て世界の果てまで、また王や統治者の前に宣べられるためである。」(23節)

主の言葉を聞く者は、それを軽んじないように、むしろ罪を捨て、主に従うように警告されています。「悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう。……さらにまた、おお、地に住む者よ、まことに、わたしはあなたがたに言う。主なるわたしは、これらのことを進んですべての肉なるものに知らせようと思う。わたしは人を偏り見ない者であ〔る。〕」(32, 34-35節)

このように、福音は世界中に伝えられなければならないということが分かります。なぜなら、永遠の御父と、主であり世の救い主である御子がそれを命じられたからです。前世での会議において御父の計画を知り、「喜び呼ばわった」者たちは(ヨブ38:7)、神と御子イエス・キリストの力を通して福音を受け入れるとき、再び歓喜するのです。



歴史

の試しに耐える

現代のために何世紀もの間取っておかれたモルモン書は、
メキシコの青少年が人生の試練に耐えるうえで
不可欠な証をはぐくむのに重要な役割を
果たしています。

古代文明の遺跡は
メキシコと
中央アメリカの
至る所に見られる。
メキシコシティに
近いテオティワカンに
ある太陽のピラミッド
(右)は、その荘厳さで
よく知られている。
カルメン・エルナンデス
(挿入写真—上)と
弟のサムエル(挿入写
真—中央)のような
メキシコのメリダに
住む末日聖徒の
青少年は、
ジビルチャルトウンや
チチェン・イツァ
(挿入写真—下)
など、自宅近くにある
遺跡の見学が
好きである。

写真/アダム・C・オルソン。
特記されたものを除く。



教会機関誌

アダム・C・オルソン

サンドラ・エルナンデスとメイリー・トロサは、メキシコのジビルチャルトゥンにある古代遺跡の石段で休憩しながら、1,500年前の都市の遺跡に思いをはせています。辺りの静けさは、熱帯の湿った空気のように重く感じられます。しかし、その静寂はそれほど長く続きませんでした。

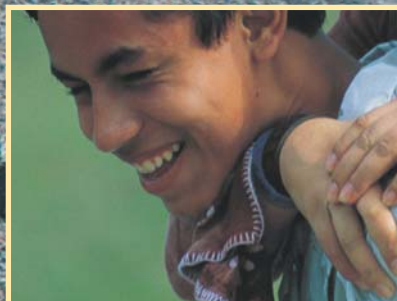
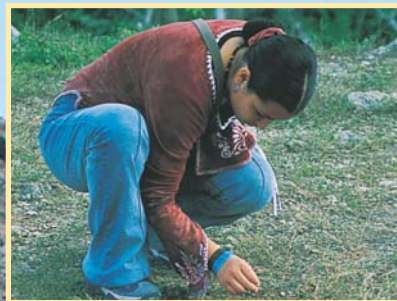
二人の休んでいた小ピラミッドの横に広がる深いジャングルの中から、笑いと叫びの入り交じった声を上げながら、サムエル・エルナンデスが出て来たのです。友人のホルヘ・トロサとウィルベルト・アゴスタも、すぐ

後ろから出て来ました。

「ああ、死ぬかと思った。」サムエルは石段の上に座り、息を継ぎながら笑っています。仲間と一緒にジャングルの中をゆっくり進んでいましたが、草に覆われた建物に近づいたときに、隠れていた鳥の群れを驚かせてしまったのです。もちろん、驚いたのは鳥の方だけではありません。「ああ、心臓がまだドキドキしているよ。」サムエルは笑いながら言いました。

取っておかれた証

サムエル、メイリー、そしてメキシコのメリダ中央ステークのカネクワードに所属するこの青少年のグループは、メキシコの古代遺跡を探検しに来ていました。ジビルチャルトゥン



メイリー・トロサ(下)とエリカ・プート、ウィルベルト・アゴスタとカルメン・エルナンデス(右端)はジビルチャルトゥンにある遺跡と、古代の石灰岩の深い穴で底に水たまりのあるセノーテ(挿入写真—中央)を探検している。テオティワカンの遺跡には、祭司の法廷(挿入写真—上)と羽根のある蛇のしるし(挿入写真—下)もある。

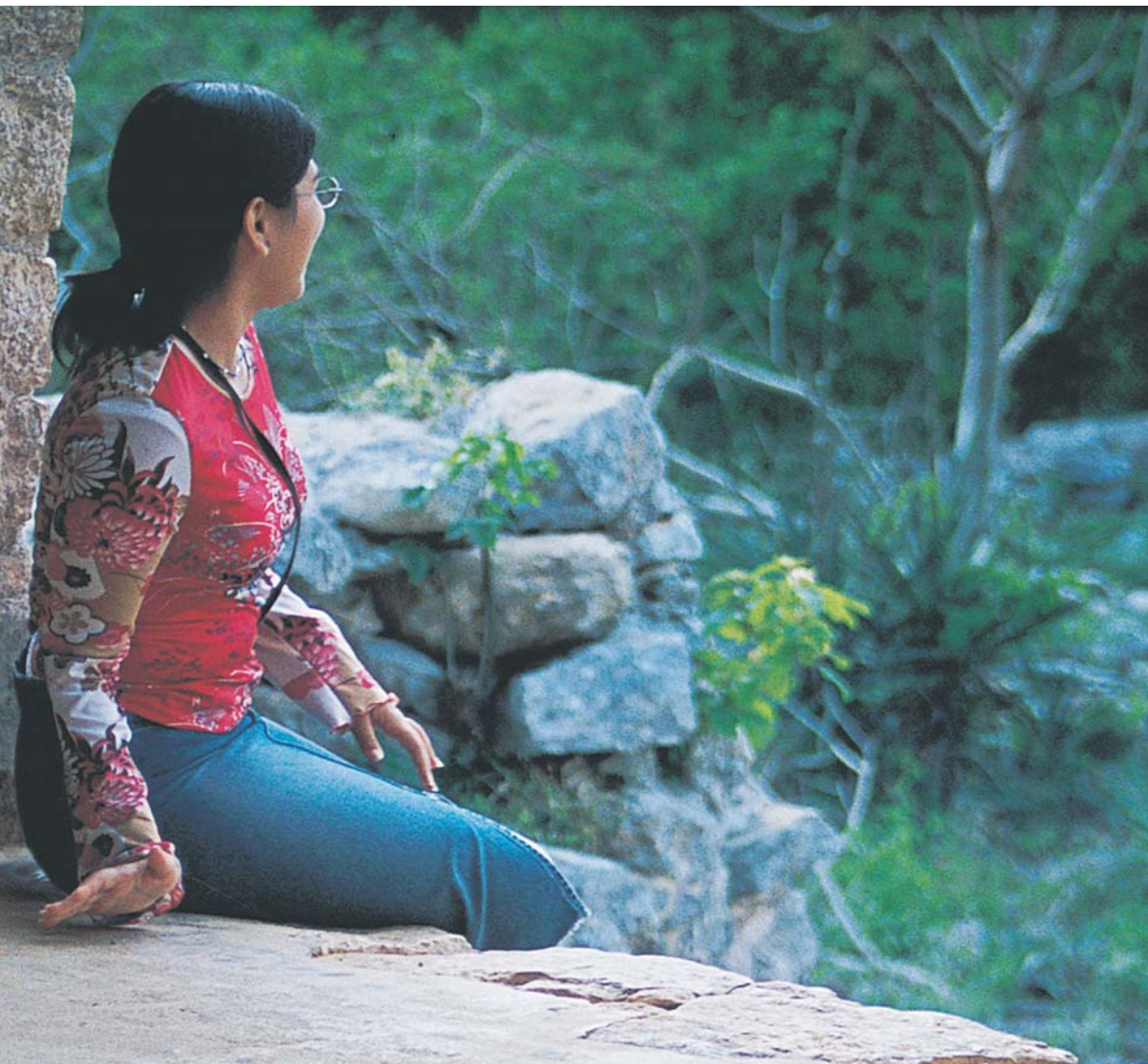
は、今は廃虚と化した、古代アメリカの集落の一つです。ジビルチャルトゥンのような遺跡は、アメリカ大陸の各地に何千とあります。

メソアメリカとも呼ばれる、中央メキシコからホンデユラスまでの地域には、かつて多くの文明が繁栄していました。今回のジビルチャルトゥンへの旅で、若人たちは、先祖が築いた都市の一部が保存されており、先祖が住んでいた場所を探検できることに感謝しました。「先祖が何をしていたか、先祖に何が起こったかを学ぶのは、おもしろいです。」執事の職を持つホルヘはそう言いました。

若人たちはまた、リーハイの家族の記録が残されており、その教えと経験から学ぶことにも感謝しています。「主がモルモン書を残してくださり、モルモン書から学べるようにしてくださったことに感謝しています。」ホルヘはそう言いました。

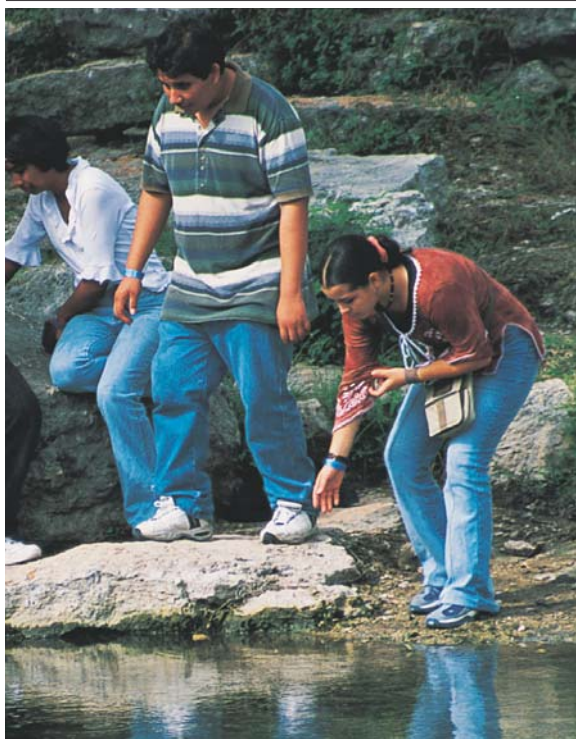
ニーファイ、エノス、モルモンなど、ニーファイ人の預言者の多くは、子孫を助けるため、イエス・キリストに対する自らの証を保存して下さるよう主に祈りました(2ニーファイ25:21;エノス1:16-18;モルモンの言葉1:8参照)。

主は約束どおり古代の預言者の記録を保存



し、現代の預言者ジョセフ・スミスを通して再び世に出されました。現在モルモン書は、モルモン書を記した人々の子孫だけでなく、世界中の人々をもイエス・キリストのもとに招いています。

「わたしはモルモン書にとっても感謝しています。」マイアメイドの生徒であり、いつの日かモルモン書を記した預言者に直接お礼を述べたいと思っているカルメン・エルナンデスはそう言いました。「預言者たちに会ったら、こう言いたいのです。『ほんとうにたくさんの方が答えを見いだし、キリストのみもと



モルモン書に関する数字

モルモン書には**239**の章があります。

いちばん長い章はヤコブ第5章で、**77**の節があります。

いちばん短い章は第三ニーファイ第30章とモロナイ第5章で、それぞれ**2**節ずつです。

モルモン書には救い主を表す言葉が**3,925**回出てきます。1.7節に1回の割合になります。

モルモン書の初版は**5,000**部が印刷されました(1830年3月)。

1830年から2002年の間に、モルモン書は**1億893万6,922**冊印刷されました。

モルモン書全編または一部が**103**の言語に翻訳されています。

モルモン書には“it came to pass” (訳注——日本語では「さて」「そして」「そこで」などと訳されている) という言葉が**1,346**回出てきます。

に来る助けを受けています。ありがとうございます。』(2ニーファイ33:11;モルモン書ヤコブ6:13;エテル12:38参照)

証を強める

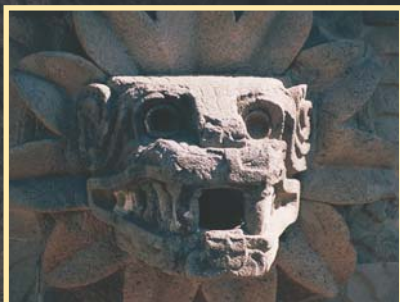
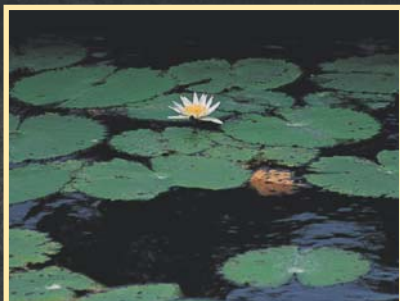
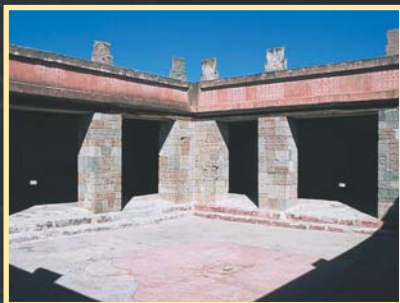
モルモン書に記録されたキリストへの証は、時間が経過しても朽ちないよう、主の手によって守られましたが、メソアメリカの古代都市の方は、そうはいきませんでした。時間、天候、その他の要因によって、かつての偉大な文明は瓦礫と成り果てました。

それでも、カネクワードの若人たち、また彼らのような若人たちは、このような遺跡を訪れ、大勢の人がそこに住んでいる様子を想像し、当時についてあれこれ思い巡らしています。

「モルモン書に出てくる人たちが建設し、住んでいたかもしれない。このような建物を見られるなんてすごいと思います。」カルメンはそう言いました。

セミナーと日曜学校での学習を通して、カネクワードの青少年は遺跡のように朽ちたりしない、キリストへの強い証を築こうとしています。

「モルモン書の勉強をするにつれて、モルモン書がもっと好きになり、救い主への証が強くなりました。」カルメンはそう言いました。

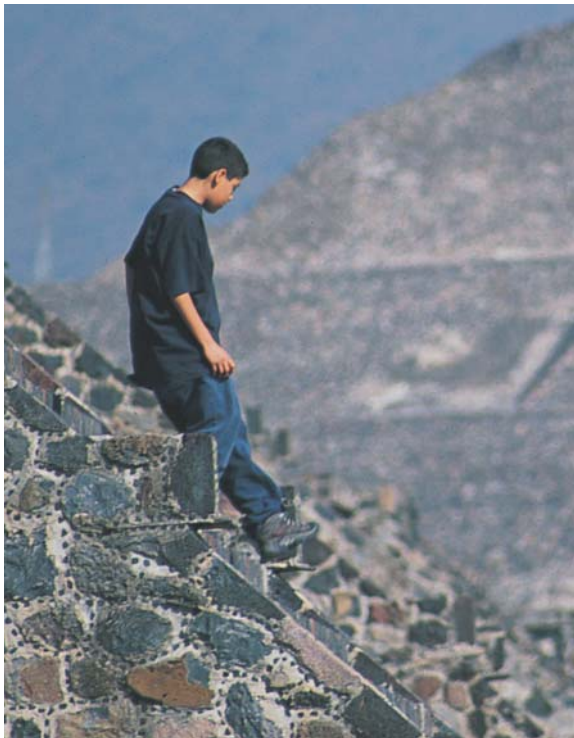




モルモン書の約束

世界中の教会員は、今年、日曜学校でモルモン書を勉強し、一人一人が祈りを通してモルモン書は真実であるという証を得、あるいは証を新たにすることができます(モロナイ10:3-4参照)。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように言いました。「わたしは皆さんにはっきりと約束します。これまでに何度読んだかに関係なく、祈りの気持ちでモルモン書を読むなら、皆さんの家庭の中に、さらに豊かに主の御霊が注がれるようになります。そして、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることがはっきりと分かるようになるでしょう。」(『モルモン経』『聖徒の道』1988年10月号、7参照)



カネクワードの青少年は、キリストへの証を強めるもう一つの大切な要素は、神殿に行くことだと話してくれました。

古代と現代の神殿

通称を「神殿の地」というメキシコ南部には、あちこちにある「神殿」を多くの観光客が見にやってくる。「神殿」と呼ばれるのは、かつてそうした建物を宗教上の目的に使ったと考えられているからです。しかし、古代の神殿が周囲にたくさんあるにもかかわらず、メキシコの青少年は、主と聖約を交わし、永遠の結婚をすることができる、末日聖徒の神殿があることに最大の喜びを感じています。

2000年7月に完成したメキシコ・メリダ神殿もその一つです。メリダ神殿は、カネクワードの青少年の住む地域から車で10分ないし15分という近さです。

「神殿ができると分かったときは、だれもが大喜びでした。」祭司のイスマエル・エレラはそう言います。「以前はメキシコシティーまで行かなければならなかったのですから。」

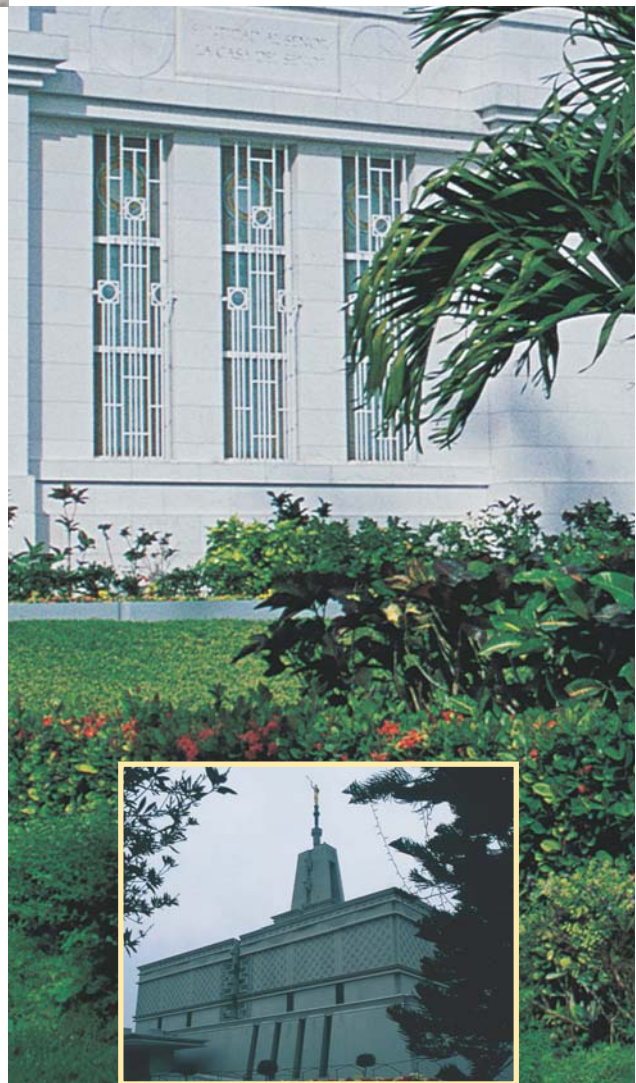
かつてカネクワードの青少年たちは、死者のためのバプテスマを受けに、16時間以上も

かかるメキシコシティー神殿まで行っていました。

ホルへはこう言います。「メリダ神殿はとても近いので、神殿に行く機会がととも増えました。」

カルメンもうなずきながら言いました。「もうメリダ神殿まで何往復もしましたが、その時間を全部合わせても、メキシコシティー神殿へは1、2回しか行けません。ここに神殿があるおかげで、ずっと多くの人を助けることができます。」

主は常に、御自身の民に神殿を建てるよう



命じてられました(教義と聖約124:39参照)。例えばモルモン書では、ニーファイと彼に従った人々は、レーマンとレムエルについた者たちから別れた後、間もなく神殿を建設しました(2ニーファイ5:16参照)。ベニヤミン王は、神殿で民を教えましたし(モーサヤ1:18参照)、アルマとアミュレクも神殿で教えを説きました(アルマ16:13参照)。そしてキリストもバウンティフルの神殿に集まった人々に御姿を現されたのです(3ニーファイ11:1参照)。

メキシコ生まれのこの青少年たちもニーファイ人の神殿について読み、古代の神殿跡を訪

れました。しかし現在、奉獻された神殿が地元にあります。この若人たちは皆、この現代の神殿に行くのが大好きです。そこには平安と静けさがあります。

外界の手が入っていないという点では、現代の神殿も古代神殿の遺跡も同じような雰囲気があります。しかし、現代の神殿では、ほかの場所では感じる事のない何かを感じます。

「ここは主の宮なのです。」ホルへはそう言いました。■

アダム・C・オルソンはユタ州バウンティフル南ステーク、バウンティフル第20ワードの会員です。

メキシコシティーに住むルイス・チャベス、ジュニア(左端)。奥の方には、テオティワ坎の「月の神殿」が写っている。このような遺跡の多い地域で、メキシコの青少年は自国に現代の神殿が12あることに感謝している。メキシコ・メリダ神殿を訪れるカネクワードの青少年(下)。以前はメキシコシティーの神殿(挿入写真)に参入していた。



心の準備

ジョエル・フェアフィールド

1996年6月のことです。ある日の午後、わたしはパトカーに乗ってスピード違反の取り締まりをしていました。すると無線で、コンビニエンスストアの店員と客との間で口論が起きているとの報告が入ったのです。二人の新米警察官が派遣されることになりました。わたしは違反者があまり見つからなかったため、手伝いにその店へ

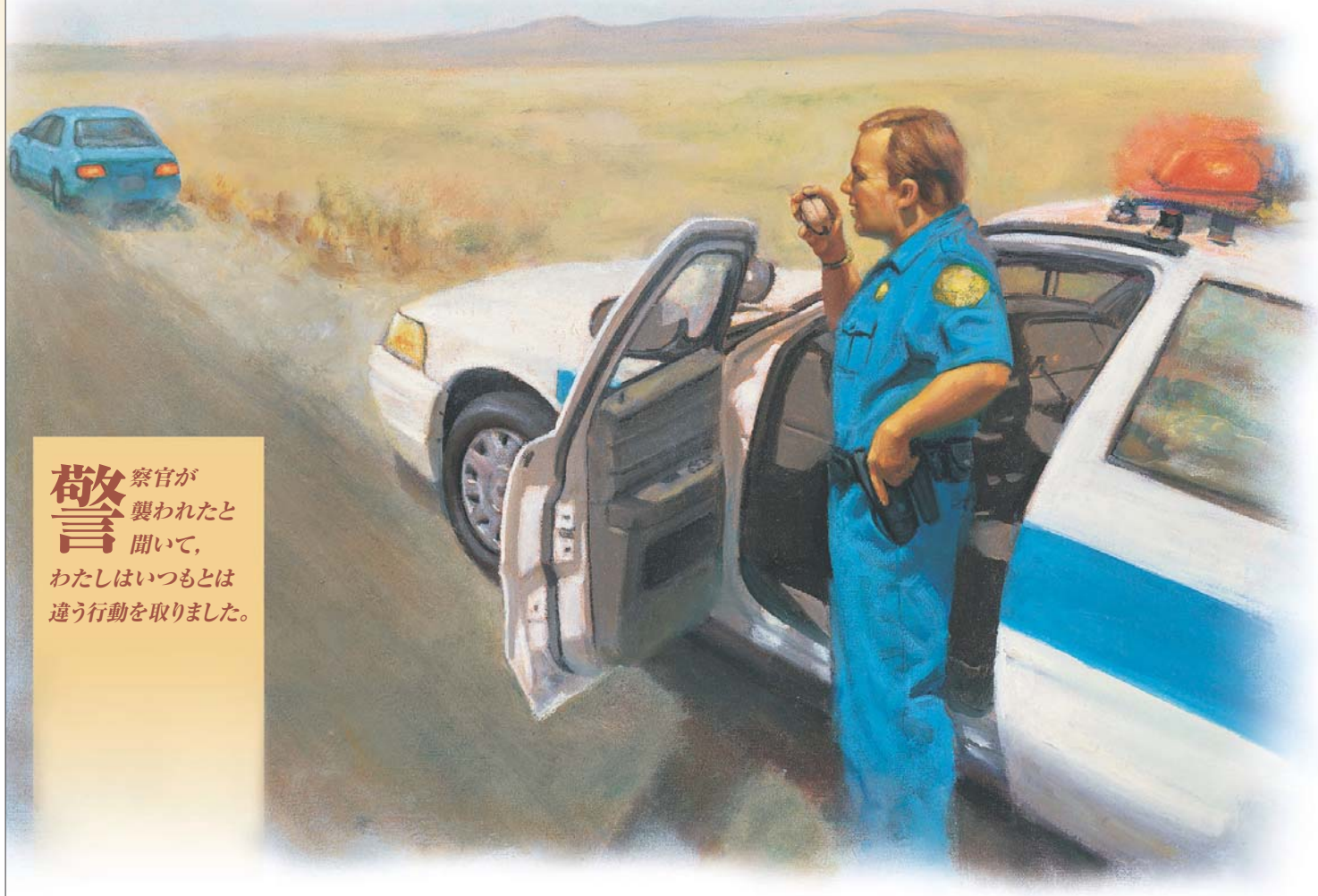
行くことにしました。そして、めったに通らない路地を運転するよう促されました。

間もなく無線で、最初に現場に到着したのがベンであることを知りました。ベンは最近配属されたばかりで、ほとんど経験がありません。わたしは心配になりました。

その裏通りを続けて運転していると、通信指令室から報告が入りました。例の店の客は酔っていて、好戦的になっているということです。多少経験のあるロッキーが現場に到着したと聞いたときは幾分ほっとしました。

そのとき、この4人組みの客が青い小型車で逃走したとの報告が入りました。現場へ向かう途中だったわたしは、別の管区の警察官が小型車と人物の特徴を伝えるのを聞きました。全警察官は車を捜すようにとのことでした。そしてロッキーの声が無線に入り、その車が最後に目撃された方向を告げました。

しばらくすると、その車がわたしの方へスピードを上げてやって来たのです。そして警察官が一人負傷したとの知らせを聞き、わたしの心は重く沈みました。恐らく最初に現場



敬言 警察官が
襲われたと
聞いて、
わたしはいつもとは
違う行動を取りました。

へ到着した新米警察官のベンが襲われたのでしょう。

わたしは素早く方向転換をして、車を追跡し始めました。するとその車は片側に寄って停車したのです。まるでわたしが通り過ぎるのを待っているかのようにでした。警察官を襲った犯人が乗っていると思ったわたしは、いつもとは違う行動を取り、全神経を集中して警戒しました。赤色灯をつけ、相手から少し離れた所に車を止めました。小型車を停止させたことを通信指令室に知らせたから、わたしは銃を構えて応援を待つことにしました。約1分後にロッキーが応援に駆けつけました。

わたしたちは一人一人に銃を突きつけ、車から出て来るように告げました。ロッキーは一人ずつ尋問をしました。そうするうちに、巡査部長がある非番の警察官を連れて到着しました。青い車の4人のうち、2人が襲ったというのは、実はこの警察官だったのです。しかも、単に罵倒を浴びせただけのことでした。ベンは無事で、まだ店に残って目撃者に話を聞いていました。

4人組みの男は逮捕されました。車の中からは半自動の狙撃用小銃と数箱の弾薬が見つかりました。後にその小銃は、連射できるよう改造されていたことも分かりました。また、逮捕された1人はギャングの一味で、長年暴力行為を続けていたのです。それは特に警察官に対するものでした。

事情聴取の後、事件の報告を行いました。わたしは記憶をたどりながら事件の説明をし、青い車の男たちが一人の警官を襲ったことを聞いたと話しました。部屋は一瞬静まり返

りました。すると巡査部長が、どの無線でも警察官が負傷したとの報告をした者はいないと言ったのです。部屋中を見回しましたが、皆それに同意していました。わたしは確かに報告を聞いたと伝えました。

最終的にあることが分かりました。わたしが危険な状況下でも耳を傾けられるような方法で、聖霊が語りかけてくださったのです。もし、警察官が負傷したと聞いていなければ、わたしは不用意な行動を取って命を失っていたかもしれません。

あの日、心の準備をさせてくれた御霊の声にとっても感謝しています。■

ジョエル・フェアフィールドは、モンタナ州ステイブンスビルステーキ、ステイブンスビル第1ワードの会員です。

主の計画

リチャード・J・アンダーソン

妻とわたしは涙ぐみながら、伝道の召しを告げる手紙を開けました。夫婦で伝道に出ようと何年も前から計画をしていたのです。そして、ニュージーランド・オークランド伝道部に召されたのが分かった、喜びでいっぱいになりました。そこは45年前にわたしが若い宣教師として奉仕した場所でした。当時の素晴らしい記憶がよみがえりました。

若い宣教師として伝道した時のことです。同僚のゴードン・ギャラップ長老とわたしは、夕方遅くに農道を歩いていました。車の往来はほとんどなく、だれも二人の疲れ切った長老を乗せてくれるようには思え

ませんでした。わたしたちはひざまずき、車に乗せてもらえるよう主に助けを求めました。

ちょうどそのとき、小型トラックが止まったのです。運転手のサム・ポタカはわたしたちの目的地であるタイハベの近くに住んでいました。サムの自宅があるウティク村に着くと、夕食に招待されました。そしてサムの家族に福音を伝え、すばらしい時間を過ごすことができたのです。やがてサムの妻、義母、すでに結婚している二人の娘と一人の息子とそれぞれの家族は、証を得て教会に入りました。後にもう二人の息子も改宗しました。このすばらしい家族の改宗は、伝道中のハイライトでした。

妻とわたしは、サムの家族について思いをはせました。45年たった今、彼らはまだ元気になっているでしょうか。会うことができるでしょうか。教会に活発に集っているのでしょうか。

ニュージーランドに到着して間もなく、サム・ポタカの子供や孫、その家族を含めて100人以上の子孫に出会いました。ほとんどが教会に活発でした。多くは地元のステーキやワードの指導者となり、子供や孫を伝道に送り出していました。

サム・ポタカの娘の一人、ユナ・ツァクリスは家族歴史の専門家になっていました。ユナは、夫のギリシャ人の先祖を含めて、何百人もの先祖を調べました。ギリシャにはあまり多くの教会員がいなかったため、彼女の家族歴史の作業はほかに類を見ないものとなりました。

妻とわたしは、ニュージーランド神殿に招かれました。ユナやそのほかの家族と一緒に先祖の結び固めを

行うためです。神殿での経験は忘れ難いものとなりました。一人の善良な男性が御霊に耳を傾け、二人の宣教師を車に乗せたことにより、多くの家族が教会に加わりました。それだけでなく、今やその家族と子供た

ちが、福音を聞くことなくこの世を去った何百人というギリシャ人やマオリ人の先祖のために神殿の儀式を執行しているのです。主は現世と来世の両方で福音を宣べ伝え、それが受け入れられるように小さなことか

ら偉大な業をなさるのです。

教義と聖約第64章33節にある聖句が、これほどまでに大きな意味を持ったことはありませんでした。「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大いなることが生じるのである。」■

リチャード・J・アンダーソンは、オレゴン州クーズベイステーク、フローレンスワードの会員です。

天からの助け

セフェリナ・ドラ・フローレス

その患者は背が高く、ハンサムで、白い服を着ていました。そして何も言わずに、じっとこちらを見詰めていました。わたしはこの患者の薬を買うために、しよほうせん処方箋を取りに来たのです。

ちょうどそのとき、同じように白い服を着た看護師が現れ、1枚の紙を差し出しました。医療記録のようでした。

「この患者のファイル番号ですか。」

そう尋ねると、看護師は何も答えずにただ紙を裏返しました。そこには12.830という番号が書いてありました。

この出来事は、ある事実を除けば取り立てて言うほどのことではありません。その患者は、弟のカルロス・ユゴだったのです。弟は1年以上も前の1990年4月7日に亡くなりました。わたしは夢を見ていたのです。

午前4時に目が覚め、すぐさまその番号を書き留めました。その日、早

看 看護師が現れて1枚の紙を差し出しました。その紙を裏返すと、番号が書いてありました。

く起き出したわたしは、娘のアナに夢のことを話しました。アナに番号を見せると、それは医療ファイルの番号ではなく、日付のようだと言いました。はっとしました。この夢は、ずっと捜していた父方の祖母の家族歴史情報に関係があるに違いないのです。この10年間、父の出生証明書を見つけようとしたがうまくいきませんでした。そして祖母に関する情報を入手することに力を注いでいました。

夢を見る前、わたしはアルゼンチンのメンドーサにある歴史公文書館に戻って、調査員が何か役に立つ情報を見つけていないか確かめようと思っていました。1925年から1932年の間を調査するようお願いしていたのです。しかし、公文書館に戻る前に、ゴドイクルス墓地に行った方がよいと強く感じました。

その日の午前8時に、墓地の従業員であるパス氏のところに行きました。そして例の日付を基に記録を見てもらい、祖母のマルガリータ・フローレスの死に関する情報が載っていないか調べてもらったのです。パス氏がその古く擦り切れた記録簿に目を通して間、わたしは静かにそして熱心に祈りました。

するとパス氏がこう言いました。「おや、幸運だね。おばあさんのお墓はここだよ。」そして文書にその旨を書き、署名と押印をしてから、一緒にH区域へ行ってくれました。そこには小さな真鍮しんちゅうのプレートに「マルガリータ・フローレス、1930年12月8日死亡」と書いてありました。夢で見たのと同じ日付でした。

祖母が亡くなったとき、わたしは

まだ生まれていませんでした。しかし、死後60年以上たって、祖母が埋められた場所を見つけることができました。

その後、公文書館へ行き、祖母に関する情報が見つかったか尋ねました。担当者から期待どおりの答えは返ってきませんでした。そこで墓地でパス氏からもらった証明書を渡すと、5分後には祖母の死亡証明書の写しを手にすることができたのです。この情報を使って、とうとう父の出生証明書を見つけ、父の祖父母の名前も分かりました。

愛にあふれた天の御父の限りない憐れみのおかげで、必要な情報が与えられました。そして手に入れたすべての情報は、身代わりの儀式ができるようすぐにアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿に送りました。

やるべきことはまだたくさんあります。けれども、思いと心を進んで主にささげて努力するとき、天からの助けを受けられると知っています。輝かしい復活の日に、愛する人々と一つになることを心から願っています。■

セフェリナ・ドラ・フローレスは、アルゼンチン・ゴドイクルスステーク、ゴドイクルス中央ワードの会員です。

立入禁止

リンダ・マークス・テリー

その月ももうすぐ終わろうというとき、新しい訪問先の姉妹を一人だけ訪問できずにいました。ジョアン（仮名）には一度も会ったことがありませんでし

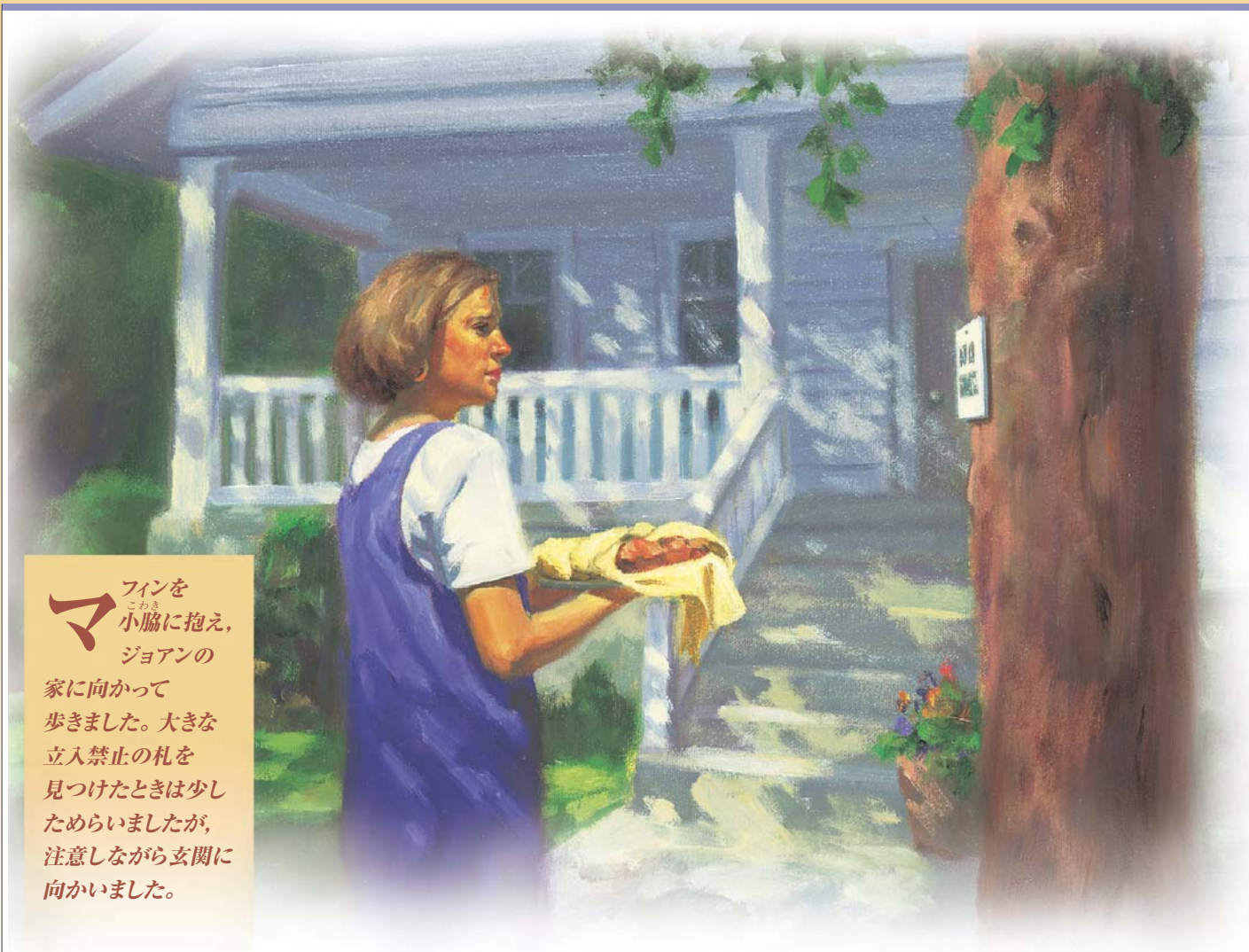
た。ジョアンは教会に出席しておらず、最近教会との接触も嫌がっていました。

その月に何度も彼女の家に電話をしましたが、いつかでも留守番電話が応答するのです。わたしはメッセージを残し、自分が新しい訪問教師であること、そして会えるのを楽しみにしていることを伝えました。電話をくれるようにも言いましたが、一度もかかってきませんでした。

月末まで残り2、3日になって、わたしはマフィンを持って約束なしにジョアンの家を訪れてみることにしました。ジョアンの家の近くで混雑した道路を行ったり来たりしましたが、教えられた番地に該当する家は一軒もありませんでした。次第に我慢ができなくなりました。「どうしてこんなことをしているのかしら。たぶん家にだっていないわ。それにこのマフィンを玄関に置いたところで、野良犬が食べてしまうだけよ。」ワードの会員名簿を調べると、割り当て表に書かれたジョアンの住所が間違っていることが分かりました。正しい住所が分かっただけからは、すぐに家が見つかりました。

マフィンを小脇こわきに抱え、ジョアンの家の方へ歩きました。大きな立入禁止の札を見つけたときは少しためらいましたが、注意しながら玄関に向かいました。呼び鈴を2度鳴らしましたが、返事はありません。「まあいいわ。少なくともここまでやったんだもの。」わたしは玄関の近くにマフィンとメモを残して帰りました。

その晩の夕食で、今日の訪問のことを家族に話しました。わたしは、顔を見たことも、声を聞いたことも



マフィンこわきを
小脇に抱え、
ジョアンジョアンの

家に向かって
歩きました。大きな
立入禁止の札を
見つけたときは少し
ためらいましたが、
注意しながら玄関に
向かいました。

ない、接触のしようがない姉妹を訪ねた結果、結局無駄に終わったと言いました。しばらくすると電話が鳴りました。いつもは食事中に電話を取らないのですが、そのときは電話に出ました。電話の女性は、ジョアンだと名乗りました。突然、これまで赤の他人だった彼女が友人のように思えたのです。「ジョアン！ ずっとあなたの声を聞きたかったのよ。電話してくれてすごくうれしいわ。」わたしは喜びのあまり叫んでしまいました。

ジョアンは最近もめ事があって、電話をかけられなかったと説明しました。彼女はこう続けました。「今日は裁判所にいたの。裁判官と別居中

の夫の前に立って、打ち負かされ、侮辱された気分だったわ。帰り道、運転しながら『神様、わたしは惨めで、だれからも愛されません』って祈ったの。そして泣きながらこうお願いしたの。『もしわたしを愛してくださるなら、お示してください。』

家に帰ると、目の前にマフィンのお皿とメモがあったわ。『心配しています。愛を込めて。訪問教師より。』そう書いてあったの。まるで神様が起こしてくださった奇跡のようだったわ。神様がわたしを愛していますっておっしゃっているみたいだったの。神様はあなたをお遣わしになって、わたしの祈りにこたえてくださったのよ。ただそれを伝えたくて電

話したの。』

その日以来、ジョアンは友人になりました。ともに聖文を読み、祈りました。そして、教会にも一緒に出席してくれるようになりました。ジョアンは、主に仕えるときには決してあきらめてはならないことを教えてくれました。彼女はわたしへの贈り物なのです。■

リンダ・マークス・テリーは、ワシントン州プレマートンステーク、シングレアビューワードの会員です。

御存じでしたか？



それは2月の出来事でした

教会の歴史の中で2月に起こった重要な出来事を幾つか紹介します。

1833年2月2日——預言者ジョセフ・スミスが新約聖書の翻訳を終えました。

1853年2月14日——ブリガム・ヤング大管長がソルトレーク神殿の鋳入れを行いました、ヒーバー・C・キンボール第一副管長が敷地の奉献を行いました。基礎工事この日に始まりました。

1979年2月18日——イリノイ州ノーブーで、エズラ・タフト・ベンソン大管長が、1,000番目のステーキを組織しました。



2000年2月——教会は1億冊目のモルモン書を印刷しました。

2000年2月26日——ゴードン・B・ヒンクレー大管長がメキシコ・シウダーアレス神殿を奉献しました。

2000年2月27日——ゴードン・B・ヒンクレー大管長がメキシコ・ソノラエルモシージョ神殿を奉献しました。

指導者へのヒント

七十人のロバート・R・ストイアー長老は次のように述べています。「指示を受けたという望みが、現状維持で気楽にとどまっていたという望みよりも大きくなるときに、わたしたちは学ぶ力を持つように〔なります〕。」「(『学ぶ力を持つ』『リアホナ』2002年7月号, 34) 偉大な指導者は、絶えず学び、教会の指導者の勧めに従うことにより、自分を高める努力をします。

クリスタス像

デンマークの彫刻家ベルテル・トルバルセン(1768-1844年)の「クリスタス」の複製品が、数か所の末日聖徒訪問者センターに置かれていることを知っていますか。この白い大理石でできた救い主の像は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」という救い主の呼びかけを表したものです(マタイ11:28)。

3.37メートルもの巨大な「クリスタス」像が、テンプルスクウェアの北訪問者センターに設置されたのは、1966年のことです。「クリスタス」像はさらに、クモラの丘の訪問者センターと、ニュージーランド・ハミルトン神殿、ハワイ州ライエ神殿、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿、アリゾナ州メサ神殿、メキシコ・メキシコシティー神殿、カリフォルニア州オークランド神殿、ユタ州セントジョージ神殿、ワシントンD.C.神殿にそれぞれ隣接する訪問者センターにも設置されています。



自分自身を ふさわしく保つ

「若い男性、女性の皆さん、ふさわしさを保ってください。不道德な行いに導くような環境や音楽、映画、ビデオ、クラブ活動、交際から離れてください。」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー
「あなたがたは神の宮である」
『リアホナ』2001年1月号, 86

左上から「聖書を翻訳するジョセフ」ロバート・T・バレット画、シャベルの写真/クレーグ・ダイヤモンド、メキシコ・シウダーアレス神殿とメキシコ・ソノラエルモシージョ神殿の写真(Church Newsの厚意により掲載)、モルモン書の写真/マシュー・ライアー。「クリスタス」の写真/スティーブ・トレギー



「確信を放棄してはいけない」

『リアホナ』を定期的に読むことによって、末日聖徒のために書かれた一つ一つの記事に込められている、メッセージや勧告の大切さに気づくようになりました。世界中の教会員から寄せられるすばらしい話や証から、勇気と励ましを得ています。

以前わたしは、間もなく失業することになると知らされました。そのとき2000年6月号の『リアホナ』が届きました。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老の「確信を放棄してはいけない」という記事があり、すぐに「これは自分のために書かれたものだ」と思いました。まさにそのとおりでした。必要としていたものが得られるまで、平安と確信の中で、落ち着いてメッセージを数回読み返しました。するとわたしの信仰は増し加わり、自分は独りで

はないことが理解できました。

ホランド長老が教えてくださった原則を実践することによって、新しい仕事を見つけることができました。再び天の御父の慈しみにあずかることができたことで、心は喜びと御父への感謝で満たされました。逆境は霊的に成長するために必要なものであり、確信を放棄してはならないことが分かりました。

ホンジュラス・テグシガルパ・トンコンチン
ステーキ、ヌエボロアークワード
フレディ・バエガ・サンティ

恥ずかしさや恐れを抱かずに福音を分かち合う

主の業は容易なものではありません。能力と心からの努力が求められ、エネルギーも使います。今日、多くの人が末日聖徒イエス・キリスト教会に非難を浴びせています。真理から遠ざかり、自分の知恵を信頼しています。この世の影響力に対抗するために、主は神権を尊ぶ男性を必要としておられます。神から信頼されキリストのような徳を持つ男性は、回復された福音を世に携えて行く助け手となることができます。

恥ずかしさや恐れを抱かずに福音を分かち合しましょう。福音はこの神権時代に回復されました。わたしはそれが真実であることを知っています。人々の不死不滅と永遠の命をもたらすために熱心に働きましょう。
コンゴ民主共和国・キンシャサ伝道部
ジーン・ポール・カバソバ長老

預言者に従って得られる平安

神が預言者を通して与えてくださる導きに変感謝しています。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長の勧告は人生の目的を教えてください。福音の原則を実践することは、ロボットのようにただ従う以上の意味があることが、よく理解できるようになりました。それは頭で知っていることを心で感じるということなのです。預言者の勧告に従って得られる平安をはじめ、心の中に大きな変化を感じています。

アルゼンチン・ドロレス地方部、ドロレス支部
カルロス・アルベルト・コレア

配送センターからのお知らせ

教会員の福音の教え方を、霊的・技術的な面で改善してくれる資料集『教師、その大いなる召し』(36123 300)が、多くの言語で出版され、入手可能になっています。個人で学ぶ手引きとして、親が子供を教える際に役立つ資料として、教師改善集会のテキストとして、ぜひご活用ください。注文方法や価格については、地元の配送センター、またはワード・支部の指導者にお問い合わせください。





「**家**族は教会の基本単位
となるものですから、
家庭での家族一人一人
の義にかなった行いが、重要な
役割を果たします。義にかなった
行いは、個人の成長や家族の
霊的進歩の中心となるものです。」
新山靖雄「義にかなった方法で
家庭を管理する」20ページ参照

